

Passo a Passo



平成21年度 専修大学 資格課程年報『パッソ ア パッソ』

教 職 課 程
司書教諭課程
司 書 課 程
学 芸 員 課 程

Vol. 12

専修大学21世紀ビジョン 「社会知性 (Socio-Intelligence) の開発」

社会知性 (Socio-Intelligence)

専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観を持ち、
地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力
専修大学が創り育てる “知”

専修大学は、2009年、創立130年を迎えました。

専修大学は、1880年（明治13年）、米国留学から帰国した4人の若者により創立されました。相馬永胤、田尻稲次郎、目加田種太郎、駒井重格の創立者たちは、明治維新後、アメリカのコロンビア、エール、ハーバード、ラトガース大学にそれぞれ官費や藩費により留学し、米国の地で「専門教育によって日本の屋台骨を支える人材を育てたい。そのことが海外で長年勉強する機会を与えてもらった恩に報いることだ」と考えました。帰国後、経済学や法学を教授するため大学の前身である「専修学校」を創立しました。わが国があらゆる分野において新時代を担う人材を求めた時代にあって、留学によって得た最新の知見を社会に還元し、母国日本の発展に寄与しようとしたのです。時は21世紀に至り、この建学の精神「社会に対する報恩奉仕」を、現代的に捉え直し、「社会知性 (Socio-Intelligence) の開発」を21世紀のビジョンに据えました。このビジョンは、創立者たちが専門教育によってわが国の人的基盤を築こうとした熱き思いを現代社会において実現することでもあります。



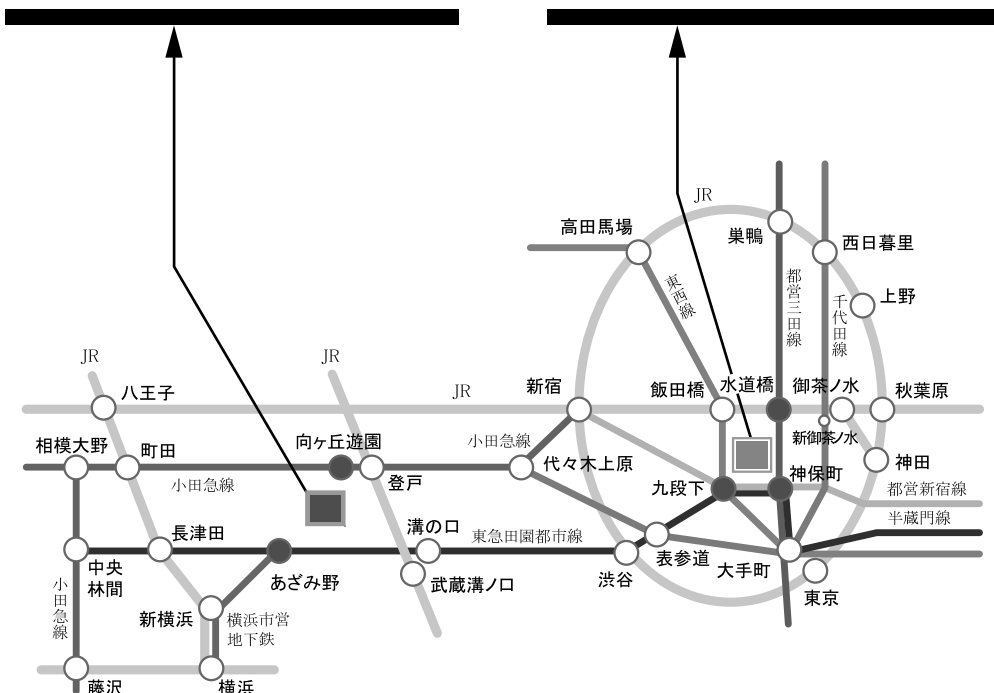
生田キャンパス

- 小田急線
向ヶ丘遊園駅（新宿から急行で約20分）
北口よりバス約10分または南口より徒歩14分
- 東急田園都市線・横浜市営地下鉄
あざみ野駅よりバス約35分
直通バス（学生専用）約20分



神田キャンパス

- JR水道橋駅西口より徒歩7分
- 地下鉄東西線・半蔵門線・都営新宿線
九段下駅「5」出口より徒歩3分
- 地下鉄半蔵門線・都営新宿線・三田線
神保町駅「A2」出口より徒歩3分



教員免許更新講習のこと 大学でやる大学らしい講習

教職課程協議会委員長 法学部 教授 広瀬 裕子

政権が交代した

この夏(2009年夏)、日本では初めて政権交代があった。政権交代によって、始まったばかりの教員免許の更新講習は現状の形としては継続されない趣旨のアナウンスが出されているが、それに代わって構想されている制度は更新講習の廃止と入れ違いに具体化するような規模のものではなく、いったいなにがどのように変わるのかあるいは変わらないのか、全国の関係者にとっては先が見えない厄介な事態になっている。

教員の免許に10年という期限を付ける方法がよいのかどうかは置くとして、また更新講習の受講結果によって免許が更新されたりされなかったりすることが良いのかどうかは置くとして、現職の教員が大学で講習を受ける現在の講習の形はなかなかよいものだと思っている。第1回目の更新講習をこの夏に実施した感触として、私は本気でこう思うようになった。

大学が行うという更新講習のメリット

大学が講習を行うこの形は、最初から意図されていたわけではない。実のところ、実施に負担感を持つ教育委員会が自分ではやらない(やりたくない)ということで、結果的に大学に押し付けたようなものだ。けれど、これは怪我の功名で、任用者に直結した機関ではなく、学問の自由を伝統とする大学が更新講習を実施するこの形には、考えようによっては積極的な意味がある。

教育の現場にすぐ役立つ講習内容が用意されるべしなどという決まり文句が制度の説明として掲げられてはいるが、これは教員に多少ともこの制度に納得してもらおうという意図なのだろうとも思う。全く手探りで更新講習を用意することになった大学も、それをひとつの指針として作業をすることになったのだが、これはあまりよい指針の掲げ方だとは思わない。間違いとはいわないまでも無理なことだ。

知と情報の宝庫

必修A講習は兎も角も、選択B講習は学校の現場など知る由もない多くの研究者を総動員しながらでないと全国規模の講習をやること

はできないわけだから、彼らに教育の現場に役立つ講習を作れというのはやや的外れている。しかし、多様な研究領域の者が講習に講師として関与することはデメリットでは全くない。最先端の学問領域が生き生きと息づく知と情報の宝庫が参画することなのだ。ただひとつ、その領域の素人にも十分理解できるような講習にすること、ここで求めるべき条件はそれだけでよい。



好評だった

この夏は、専修大学も全く手探りで第1回目の更新講習を実施した。暑い夏の盛りに生田の山(=生田校舎のこと)までお出でになる先生方に、来てよかったと思って頂けるようにと、目標はそれだった。

初日に受付を通る人たちの表情はそれぞれに硬く厳しかった。この制度に賛成でない人たちが少なからずいるからでもある。けれど雰囲気はすぐに変わった。制度の是非は兎も角も、と付け加えながらだが、専修大学の更新講習は受けてよかったと、受講者たちが日々言うようになった。大学キャンパスで、また少人数の場合には大学院のゼミのような雰囲気やったのだが、それは決して悪くないのだ。というよりも好評だった。

専修大学では、B講習の講師には教室ですぐに使えるかどうかは気にしなくてよいことにしたのだが、このことに受講者から異議も苦情も愚痴もなかった。内容が面白ければそんなこと気にならなかったのだと思う。知や情報を学校で使えるように教材に加工することに関しては、受講者こそ専門家だからだ。

現在の更新制をそのまま維持するかどうかには緒論あろう。私は現職教員が大学で学ぶことをこれほど大掛かりに形にした更新講習のこの部分は、怪我の功名として維持すればよいと思っている。この制度に改善すべき部分があるとすれば、受講者の経済的、時間的、そして精神的負担の軽減をどのような形で図るかというあたりだ。

Passo a Passo

表題はイタリア語で「パッソ・ア・パッソ」と読み、「一歩ずつ」という意味です。
地道に努力して難関に挑戦し、突破してほしいという願いが込められています。

目次

書道漫步型	文学部 教授 仲川 恭司	6
-------	--------------------	---

教職課程

卒業生から	12
教員採用試験体験記	15
教育実習を終えて	18
介護等の体験を終えて	26
「地理歴史科教育論」に関する一考察 商学部 兼任講師 岩田 公夫	27
専修大学教育学会に出席して	29
専修大学附属高等学校から「改革の中で思うこと」 専修大学附属高等学校 教諭 進路学習指導部長 長谷川 素道	30

司書・司書教諭課程

「図書館の“おはなし”一昔も今も」 文学部 兼任講師 汐崎 順子	32
図書館実習を終えて	34
在学生から	35

学芸員課程

「市町村における埋蔵文化財保護行政の仕事」 新潟県新潟市教育委員会 文化財技師 本田 祐二	38
博物館実習を終えて	40

データ編（平成21年度）

資格課程履修者数	44
教員免許状取得状況一覧	45
教育実習先一覧	46
図書館実習・博物館実習先一覧	50
主な就職先一覧（教職、司書・司書教諭、学芸員）	51
資格課程年間行事表	55
教職公開講座開催結果	56
専修大学英語科教育研究会開催結果	57
司書課程（進路）懇談会開催結果	57
資格課程教員紹介	58
編集後記	

■ 4つの資格課程

教職課程…中・高の教員免許状取得

「教職課程」は、大学卒業後、国公立・私立学校の教育職員(教員)になろうとする者に要求される教育職員免許状を取得させるためのものであり、教員を養成することを目的としている。加えて、平成10年より「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」(介護等の体験法)が施行され、中学校の教諭の普通免許状を取得しようとする者には、介護等体験が義務付けられています。

公立学校の教員になるためには、教育職員免許状を取得(取得見込)した上で都道府県及び政令指定都市教育委員会の実施する「教員採用候補者選考試験」に合格しなければなりません。

＜本学で取得可能な免許状＞

学部	学科	種類・教科	
		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
経済学部	経済学科	社会	地理歴史、公民、商業
	国際経済学科	社会	地理歴史、公民、商業
法学部	法律学科	社会	地理歴史、公民
	政治学科	社会	地理歴史、公民
経営学部	経営学科	社会	公民、商業、情報
商学部	マーケティング学科	社会	地理歴史、公民、商業、情報
	会計学科		商業
文学部	日本語学科	国語	国語
	日本文学文化学科	国語	国語、書道
	英語英米文学科	英語	英語
	哲学科	社会	地理歴史、公民
	歴史学科	社会	地理歴史、公民
	環境地理学科	社会	地理歴史、公民
	人文・ジャーナリズム学科	社会	地理歴史、公民
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	数学	数学、情報
人間科学部	心理学科	社会	公民
	社会学科	社会	地理歴史、公民

※平成22年4月人間科学部開設、文学部改組(7学科編成へ)

※「教員免許更新制講習」(免許状更新講習)

平成21年4月の新免許法の施行に伴い、免許状には最長10年間の有効期間が設けられ、免許状を失効させないためには、10年毎に免許状更新講習を受講して、免許状の更新を行うことが義務付けられました。講習を受講しなかった場合や受講後の更新手続きをしなかった場合は、免許状が失効することになります。受講資格は、現職教員の他、教壇に立つ予定にある者のみが持ちます。本学では、免許状更新講習を8月の夏期休暇中に実施する予定です。

司書教諭課程…学校図書館の専門職

「司書教諭」とは、小・中・高等学校等の教育に不可欠な学校図書館の専門的な仕事に携わる教員のことです。司書教諭は教育の現場で他の教職員と協力しながら、学校図書館の資料提供はもとより、児童・生徒に対して図書館利用や読書に関する指導をしたり、教員に対して図書館を活用した授業展開ができるように支援するといった役割を担っています。

司書教諭の資格は教育職員免許状を持たなければ有効にはなりませんので、司書教諭の資格取得を希望する者は教職課程と司書教諭課程の両方を履修する必要があります。

2003年度からは12学級以上の規模の学校には必ず司書教諭を配置することになりました。そのため、教育の現場では司書教諭の有資格者へのニーズが高まっています。

司書課程…公共・大学図書館等の専門職

「司書」とは、公共図書館、大学図書館、研究機関や企業の図書室・資料室などで、資料(図書、CD-ROM等)を収集し、利用者に対して適切に提供する専門職のことです。

司書の資格を取得するには、司書課程を履修する必要があります。

司書課程では、図書館の歴史や仕組み、資料の選び方や整理の仕方、急速に普及している電子メディア(インターネットなど)の活用法、出版流通の仕組み、子どもや障害のある人に対する図書館サービスのあり方など、図書館に関連する幅広い知識・技術を学びます。

生涯学習社会・情報社会といわれる今日、司書の果たすべき役割は非常に大きく、熱意と素養のある人材が求められています。

学芸員課程…博物館の専門職

「学芸員」とは、博物館において、資料の収集、展示、保管、調査研究、その他これに関連する社会教育的活動などの専門的な仕事に携わる職員です。ここにいう博物館とは、美術館、歴史資料館、民俗資料館、民芸館、文学館、動・植物園、水族館などあらゆる分野の公・私立の施設を指しています。こうした博物館に勤務するためには、学芸員の資格を有することが必要です。学芸員の資格を取得するには博物館法第5条に、学芸員は「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得した者」と規定されています。

学芸員の仕事は人気が高いうえ、募集もわずかなので、実際に学芸員の職につくのは相当な難関といわれています。ひとくちに博物館と言っても、歴史資料や考古資料、美術品など、扱う資料によって種類はさまざまです。学芸員を目指すなら専門知識を高めておくことも大切です。

好きなこと、チャレンジしたいことが、 キャンパスで楽しく身につくなんて！！



教員を目指す
あなたへ

教職課程

本が好き図書館で
働きたいなら



司書課程・司書教諭課程

博物館・美術館で
働きたいなら



学芸員課程

教職・司書・司書教諭・学芸員課程ガイドンス

1～4年次
教職課程履修登録
4月上旬

3・4年次
介護等体験開始
(中学校教諭免許取得希望者)
5月下旬～2月初旬

4年次
教育実習
5月～10月

卒業時(事前に申請した者)
教員免許状の交付
3月

1～4年次
司書課程履修登録
4月上旬

4年次
図書館実習
(希望者)
8月～12月

卒業後(希望者)
司書課程単位
修得証明書の
申請および交付

1～4年次
司書教諭課程履修登録
4月上旬

卒業時(事前に申請した者)
学校図書館
司書教諭修了証書
の交付

1～4年次
学芸員課程履修登録
4月上旬

3・4年次
博物館実習
(館務実習)
7月～9月

卒業時(事前に申請した者)
学芸員資格取得証明書
3月

司書・司書課程サポート

学校図書館見学会 7月開催

司書教諭課程受講学生対象に
学校図書館見学会を実施してい
ます。

司書課程就職(進路)懇談会 12月開催

図書館職関係者をゲストに迎え、
大学院進学や公共図書館関連の就
職について懇談をしています。

学芸員課程サポート

文化財セミナーを開催

平成20年10月に専
修大学130周年記念文
化財セミナー「発想転換」
開催しました。

小学校教員採用特別プログラム

本学では、これまで小学校教諭の免許状取得の道はありませんでした。ニーズの高まりに応えるため、玉川大学と連携し、2007年度より小学校教員養成プログラムをスタートさせました。本学に在学したまま玉川大学通信教育部の科目等履修生となり、免許取得に必要な科目を受講し、卒業と同時に小学校教諭二種免許状の取得をめざすものです。ただし、免許取得には本学の卒業要件単位と、中学校教諭一種免許状及び高等学校一種免許状を取得するための教職課程の単位を充足した上、さらにこのプログラムの諸科目の単位を修得しなければなりません。ゆえに、プログラム参加学生は、多大な努力が求められることを十分に認識し参加してください。昨年度、第一期生のすべてが免許状を取得し、内3名が昨年4月から教壇に立ち、今年度も2名の第二期生が免許状を取得し、1名が4月から教員として働いています。

※このプログラムは小学校教員の免許取得を保証するものではありません。

※商学部会計学科は除きます。

教職公開講座 10月上旬開催

教職公開講座は、教職をめざす学生を対象にした入門講座です。年に1度、10月初旬の土曜日に開催します。教員に採用された本学の卒業生を講師として招聘し学校の様子や教員採用試験対策の話していただき、また採用試験官の経験者を招聘して試験の傾向や求められる教師像などについて話していただきます。受講することで採用試験の準備がしやすくなるだけでなく、教員になるための学生生活の送り方も理解することができます。

学校教育ボランティア

多摩区・3大学連携事業として、川崎市多摩区と日本女子大学が取り組んでいる「学校教育ボランティアによる学校サポート事業」に本学も参加しています。学生が川崎市多摩区内の小中学校に週1、2回程度ボランティアとして出向き、教師をサポートするものです。活動内容は、教科指導中の個別指導、部活指導、サポート学級の補助などです。学校や児童生徒の理解、授業力の向上など教員としての資質の向上に役立ちます。今や教員志望者にはボランティア経験が不可欠で、その貴重な体験の場となります。

教科研修生制度

本学と連携協定を結んでいる高等学校で、教員の指導の下、教育活動に関する様々な研修を行うのが教科研修生制度です。現在、川崎市を中心に7校と連携し、国語、英語、社会、情報、数学、そして学校の特色に応じて設定される学校設定科目などで研修が行われています。教育実習前に学校現場を体感し、教科等の指導を体験できる貴重な制度です。原則として3・4年生、大学院生、本学出身の科目等履修生が対象となります。

教員採用試験対策講座(エクステンションセンター主催講座) ガイダンス:4月、5月開講

教員採用試験の勉強を始めても、どのように対策を進めればよいかわからず戸惑うことが少なくありません。本学では、本気で教員をめざす者を対象に、低廉な受講料で教員採用試験対策講座を開講しています。対象者は、本学学生と大学院生、本学の科目等履修生および卒業生です。毎週土曜日に開講されます。受験指導予備校と提携し、1年間を通した計画的な指導が徹底して行われるため、合格の可能性を高めることができます。

※上記のプログラムや講座は、希望する学生のみを対象とするもので、教職課程を受講するすべての学生が対象となるものではありません。

書道漫步型

文学部 教授 仲川 恭司

◇書道室の設置

昭和57年（1982）4月から私は専修大学文学部の専任教員として勤務を始めた。当時の大学の書道室は筆硯等の洗い場はあったものの、普通の教室と殆ど変わらない状態であった。新学期の授業が開始されて間もない5月中旬、当時教務課文学部課長補佐の井上功一さんが訪ねてきて、“書道室はこのままでよいですか”と尋ねられるので、“実は悩んでいたのです。この教室では半紙のような小さいものしか書くことができず、授業内容の展開も制限されて高校芸術科書道の教員免許状を考えた時、果してこれでよいのか考えていたのです”と話した。当時の理事長森口忠造氏は書道に対して大変理解ある方で、早速どのような教室にしたらよいかということになり、いくつかの大学の書道室を参考に工夫した図面を書き上げた。私の考えとして、先ず一つの教室をフルに活用して展開ができるようにする。それには床一杯に毛氈



の下敷をひき、条幅などの大きな画箋紙を開けて創作や臨書演習ができるようにする。また、机を軽量に造って学生1人でも折畳み、片付けられるようにする。その他、鑑賞用の陳列ケースと棚、ビデオ映写用のスクリーン、ロッカーを設けるようお願いした。工事は夏期休暇中を利用して行われ、9月に予想以上の出来晴えで仕上がった。その後、大学で講座・講演があった後によく専修大学の書道室を拝見したいと言われて案内をすると、“専修大学の学生さんは幸せ

ですね”と必ずと言ってよいほどお言葉を頂いて嬉しく思った。

私の考え方は古いかと思うが、書道の学習を通して学生の人間教育の一端をも係っていると考えている。この教室に入ったら、心を落ち着かせ、集中して書道を学ぶことができる気持になるようにと考え、古碑の拓本や書軸・硯等を陳列ケースに並べている。また、会津八一がかつて門人のために書き与えたという「学規」（複製）を壁に掛けた。そこには、



現在の書道教室での授業風景

ふかくこの生を愛すべし
かへりみて己を知るべし
学藝を以て性を養ふべし
日々新面目あるべし

と八一独特の書風で書かれていて、私は文言とともに好きな書なので、時折授業中、学生達に読んで話をしている。

◇書写（習字）と書道の問題

私が書道の教員として勤め出した頃、よく先生方から“習字はいいですね”と声を掛けていただいた。確かにそうしたことも含んでいる仕事なのだが、習字と書道の違いくらいは知っていて欲しいと内心はよく思った。だが実はこれが私達の立場から言わせると大変深刻な問題を孕んでる。習字（書写）は小学校・中学校の国語科言



北アイルランドのハイスクールで実演

語事項として、日本国の国語を大切にするため、文字・言葉を丁寧に美しく書くことの心構えとして学習する。高校では書道として芸術科として人間の情操教育、一生を通して芸術を愛好する心情を養うことなどを目的とし、歴史の上に立って書道の学習内容が設置さ

れている生徒はまだよしとしても、小学校の書写で毛筆で書くことを止めてしまった学生の概念は固まり、書芸術の理解ができない人が多いのも無理もないと思う。しかし何とかしないといけないと頑張っている工夫をしている。

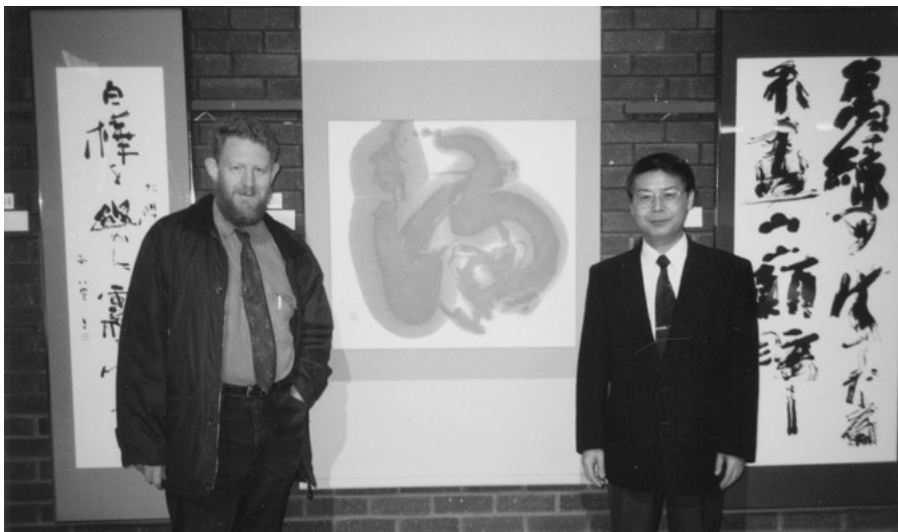


（ベトナム・ハノイ市）
ASEANベトナム開催で、デモンストレーション

れているのである。国の学習指導要領では一応小学校書写から中学校書写、そして高校書道へと流れるように編成されているが、ところが現状では殆どの中学校では書写の授業が行われていない。一時そのことが問題となり、テレビ・新聞等に取り上げていたが、その後は地震の時のように大騒ぎすると直ぐに沈静してしまったのである。小学校の時に習った中途半端な書写で既成概念ができてしまい、中学校では行われず高校で書道を選択し

◇ヨーロッパにおける異文化「書道」

ところが人間の育ってくる環境というものは恐ろしい。幼い時からの家庭や生活環境がいつの間にか人間の情操に強い影響を与えているのであろう、優れた感性を有している人物に出会すことがある。また欧米を書道だから分からないというのではなく、漢詩文でなく1文字の方が理解してくる。それは漢字がもつ意味と造形表現が大きなポイントになっているからであろう。意味には書く人の心や気持が書く点画に托されたり文字を書いて残された白や回りの白に無限な世界を感じさせてくれる。私のような仕事をしていると、日本の書を海外に紹介して欲しいという要請が多い。1990年ドイツのフランクフルト市で「フランクフル



デビット・バーカー氏と中央が私の作品

ト・ブックフェア」日本年の一環として開催された。10月3日歴史的な東西ドイツ統一の日、市内は大変賑わっている中で日本の書の紹介とデモンストレーションを行った。予定通り終了しかけた頃、最前列にいた一人のご婦人がそばに来て、“素晴らしい!!、日本人は皆んなこの様に上手に書けるのか”と尋ねるので、私は“日本人でも必ずしもできない”と言うと、“何故だ、子供に教えないのか”、私は“若者はアメリカナイズしてきて、日本の伝統文化に自信を持って育ってきている”と話すと、“それは勿体ない。貴方が悪い、しっかり教育しなさい”と叱咤激励されてしまった。困みにこの時に司会をしていただいたクリンスポア博物館々長のクリスチャン・シェフラー氏は2000年に来日された。その折、我が国の伝統芸能や芸術を鑑賞のご案内をして大変感謝された。

イギリス・ベルファスト市アルスター大学コーレーン校を中心に行った時の美術学部教授デビッ

ド・バーカー氏も日本文化に興味を持たれた方だった。特に面白かったのは、平安時代の仮名散らし書きで、ヨーロッパにはこのような書き方はないと不思議がられた。この時の会話をヒントに帰国して『専修国文（第56号）』に「平安時代における仮名散らし書き誕生についての一考察」を発表した。

ヨーロッパで数多くの作品を発表しながら書について紹介してみると、異文化の芸術として捉えているのが分かる。漢字の書体のバリエーションの多さ、墨の滲み・かすれと和画箋の質の不思議さ、絵画と違って短時間で書き上がる等々である。特にドイツは逸速く禅が紹介されてたためかよく話題に出され、それは違うと言っても分かってもらえず困った。

◇北欧スウェーデンで見た西域出土の残紙

海外へ出掛けて自分の専門分野の研究で大興奮したのは、中国以外では北欧スウェーデンの国立民

俗学博物館を訪ねた時であった。1901年中央アジアを探検したスヴェン・ヘディンが楼蘭の遺跡で発見した残紙が保管されている。残紙とは主として西晋（265～318）の尺牘（手紙）等の当時における実用通行体の一端をうかがう史料価値と書作の用筆や書風の参考になる注目すべき肉筆である。私は大学生時代から本で見て度々臨書をしてきたが、印刷が悪いのもう一つ理解できなく、歯痒い思いをしていた。ところが実物を直に見ないと気付かないものがあることを知ってビックリしてしまった。それは残紙の名の通り尺牘等の下書きを廃棄する際に、細かく破り捨てたものが楼蘭遺跡から発見された。学生時代に印刷で見たものは、墨線が裂け目で不自然に跳んでいたのがあった。帰国して学生達に教科書を手にその話をし、疑問に思ったことを諦めずに追求していると、或る切っ掛けで突然目から鱗が落ちるように解決することがあるんだと熱く語っていたら、学生諸君の方は意



湖南省博物館にて

外と冷静で、ふう〜ん、よかったね！だとさ。

◇まだまだ出てくる中国の地中

だが、自分の専門分野である書道・書史学での文物調査をするには、中国で研究された後に書物を読むだけでは埒が明かない。遺跡の現場を見るなり、墨痕の香りを感じとったり、考古研究所や博物館を訪ねて話を聞いてみなければ分からないことが多い。

1993年と1995年に夏期休暇を利用して、中国甘肅省の河西四郡（武威・張掖・酒泉・敦煌）といわれる周辺と内モンゴル居延を旅した。これらの地域は漢代にたえず匈奴との戦いが繰り広げられたところで、近くの軍事基地には多くの駐屯兵が従事していた。こう

した遺跡の周辺からは、私達書道を学ぶ人間にとって興味ある漢の兵士等が書いた木簡が多量に発見されたところであった。この木簡に書かれた肉筆の文字というのが大変貴重なもので、漢代の金石文の固い文字ではなく、生きた筆致の文字を初めて見て当時の書を解釈できるようになったのである。以来私達は隷書を書く場合、いつも木簡の息づく線を意識して書くようになっている。

これらの木簡の文字を集めてみると、隷書から草書への変遷過程を見てとれることから、私は「草書の源流についての一考察」（『専修国文（第50号）』）を発表した。

甘肅省出土の木簡は砂漠という乾燥地帯からの出土で、そのまま保存することができるが、一方同じ中国でも南の方では地下水を含んでいるためそうはいかない。湖南省、湖北省では戦国〜明・清の古井戸や楚の墳墓や先秦の城郭趾が発掘されて、次々と竹簡や木牘が出土している。ところがやっかいなその水気の処理をどのようにしているか日本の奈良平城京出土の木簡も同様の苦労があり尋ねると、最も上手なのは我々の河北省の荊州博物館だという。館長の王明欽氏の話によると、竹簡・木簡から水分を抜き取って保存する特殊な方法を編み出したと言った。今年の7月に同博物館の館長王明欽氏が来日、プロジェクトで加工



楼蘭残紙の一部分



出土した漢代の木簡（蘭州市考古研究所）



ゼミ生と京都東寺で記念写真

前と後の様子を見せていただき、自慢するだけあって確かに鮮明に古代文字が映し出された。王氏は“いつでも博物館においで下さい。沢山お見せします”と言ってくれたんだけどな～。行きたいな～。

◇日本文化の国際交流

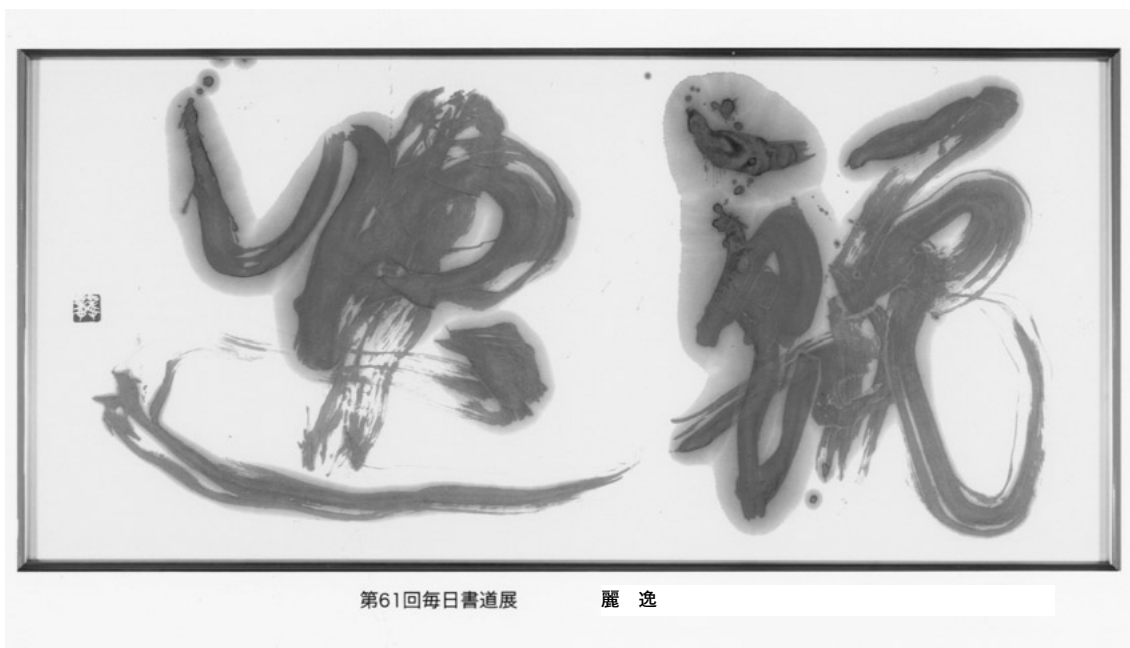
海外へ出掛けた時は時間の都合がつく限り、博物館・美術館に立ち寄る。その国の歴史を知り、絵

画・工芸・彫刻等を鑑賞するためである。しかし15・6年前になるかと思うが、帰国して上野に行きその足で東京国立博物館に入った。館内はガランとして人気もない程だったが、2階の「日本の絵画」に来た時、凄いショックを受けて立ち竦んだ。その作品は長谷川等伯筆の「松林図屏風」で、私はそれまでにも本などで度々見て知ってはいたが、実物をまのあたりす

るのは初めてであった。靄のような中に粗いタッチで描かれた松林が、簡素な中に何という美しさが潜んでいるのかと、暫くその場から動けなかった。その後も幾度が観る機会があったが、その度心臓の鼓動の高鳴りを押えることができないでいる。

国際交流の言葉を聞いて久しいが、学生諸君に“外国に確かに私達が学ぶべきものが沢山ある。しかし日本にも外国に誇れる素晴らしいものがいっぱいあるんだ。私達はそうした自国の中のことをよく知り、自信をもって他の国の人達にその魅力なりを伝えてこそ本当の国際交流ができるんだよ”と話をしている。

最近頃に日本各地の博物館で、欧米とは違う日本の美術・書道・工芸がもつ独自性を再評価しようとする催が開かれている。でもやっぱり後は直に観に行くかどうかだけどね。学生諸君!! (了)



第61回毎日書道展

麗 逸

筆者の最近の書作品

教 職 課 程



卒業生から（情報）

常総学院高等学校 教諭 松林 康德（平成19年度経営学部経営学科卒業）

教員を目指しているみなさんへ

私は教員2年目の情報科担当です。少しずつではありますが、教員の仕事がわかってきた頃だと思います。（わかっただけで、こなせるわけではありませんが。）

私が教員になろうと思ったのは、私が経験してきたことを通じて、生徒一人ひとりが持っている「夢」の実現を少しでもサポートできたら良いと思ったからです。

昨年一年間教員を行い感じたことは、理想と現実が違うな、ということです。自分の未熟さを理解出来ずに理想だけを追いかけていた気がします。理想を形にすることが出来ず、周りの先生にとって当たり前の仕事でも、効率が悪いために大変だと感じてしまう毎日でした。自分に負けそうになる時や、実際に弱音を吐いている時期もありました。いつか、理想を形に出来るように、今自分の出来ることを背伸びせず積み上げて行こうと思えるようになった時、少し気が楽になりました。

そこで私の体験してきた授業の話と部活動の話をしたいと思います。

①授業

教材研究をやりすぎる、ということは本当ではないと思いました。いろんな角度から物事をとらえ、どのように授業展開すれば生徒の反応が良く、理解してもらえるのかを試行錯誤する。みなさんもわかっていると思いますが、この作業を怠ってしまうと授業が成り立ちません。しかし、自分が納得のいく授業をしても、生徒は、つまらなくしていたり分かりづらそうにしていたりします。先輩の先生からは「生徒のせいにならず自分のせい」と思ってこれからも教材研究できる教員になりなさいと言われました。なんでこんなにやったのにわかってくれないのだから、なんで寝ちゃうのだ、と生徒の改善に走る

ようじゃ自分の成長は望めないからです。生徒はものすごい情報の量の勉強をこなしていることを理解しつつ、1コマ50分の授業を生徒に「あっという間だった」と言ってもらえるような努力が必要です。その積み重ねこそが先ほどの理想を現実に出る近道だと思います。

②部活動

顧問をして一番に感じたことは、陰でたくさんの人たちがサポートをしてくださっているということです。練習にしても、試合にしても選手時代はただスケジュール通り動けば良かったのですが、そのスケジュールをスムーズに動けるように手配をするのが顧問の仕事です。練習の流れもそうです。選手が部活動に打ち込める環境作りが私たちに求められています。決して指導者が主役ではなく、生徒が主役の精神を忘れずに熱意を持って指導してください。

今までこんな新米の話を読んでくれてありがとう。きついことも書いたけど、私は教員になれて本当に良かったです。一番大切な時期に共に悩み、共に汗を流せることや、生徒からの「ありがとう」は他の職では味わえない宝物だと思います。

最後に、一人の同期の先生との話で終わろうと思います。共に大学まで野球を続け教員になった先生との誓いです。その先生は古典を担当しています。その先生から「全国で古典を教わるなら私の所。全国で情報を教わるなら松林先生の所っていつか噂が立つようになりましょう」と言われました。自分の未熟さを理解しつつ、理想をもち続けいつまでも熱い気持ちを心に灯し突き進もうと思いました。皆さんも熱い気持ちをいつまでも持ち続け、日本一の授業を目指して働けるように共に頑張っていきましょう。同じ土俵に皆さんと立てることを待ち望んでいます。一夢は正夢—



卒業生から（商業）

埼玉県立戸田翔陽高等学校 講師 進士 勇介（商学研究科商学専攻修士課程2年）
埼玉県立大宮中央高等学校 講師

1. はじめに

私は、高校時代に出会った2人の恩師の影響を受けて教員になりたいと思うようになりました。一人は、部活の顧問の恩師であり、もう一人は、私に検定試験などの指導をしてくださった先生です。そして、商業という学問を勉強するために専修大学の商学部会計学科へと進学し、その後、商業という教科を考え、現在の状況を洞察する力や研究姿勢などを勉強するために大学院へと進学し現在に至ります。

2. 現職の高校と授業について

現在非常勤講師を務めさせていただいている埼玉県立戸田翔陽高等学校は三部定時制の高校です。私は、「課題研究」を2時間と「経済活動と法」を2時間、合計週4時間受け持っています。

課題研究ではそれぞれの生徒に課題研究で達成したい目標をプリントに書かせ、生徒自身にどのようにすれば達成することができるかを考えさせています。そのため、生徒それぞれの目標が異なります。ある生徒は簿記について、ある生徒は情報処理について、様々な質問に対して臨機応変に対応しなければなりません。また、生徒それぞれの目標が違うためにそれぞれの生徒にあった課題を考える必要があり、授業の準備に時間がかかります。

受講生徒数は6名と少ないので、個人指導を行っていますが、その一人に割く時間配分もその時々によって臨機応変に対応しなければなりません。

経済活動と法は、主として民法を中心として法律の概念を学習していく科目です。生徒にとっては身近な部分もあれば身近ではない部分も

当然あります。身近なものに関連させながら、説明をしています。

最初はノートに板書を書かせて授業を行っていましたが、途中から穴埋め式のプリントにしています。穴埋め式のプリントに変更した理由は、生徒が自分なりに書き込んで自分なりのプリントに仕上げてほしいと思ったからです。今では、数名の生徒が自分なりのプリントに仕上げてくれています。

どの教科も同じだと思うのですが、教科書や問題集に沿った内容だけを授業していても生徒は飽きてしまうため、その授業の単元に関する新聞記事や判例などをプリントとして配布しています。判例百選は用語や言い回しが難しいため、重要な点を中心にわかりやすい言葉に直して解説を行っています。

3. 最後に

「授業という時間は、生徒にとってのその時間は二度と戻ることがない。言い換えれば、貴重な人生の時間をいただいている、という認識に立たないといけない。」と教壇に立つ際に先輩の先生に頂いた言葉です。

授業の準備は、時間がいくらあっても足りないくらいです。今までの授業で納得のいく授業を一度もできたことはありません。生徒に突っ込まれたりすることもあります。そんな授業でもある生徒に「先生の授業はわかりやすい」と言われると嬉しいですし、よりよい授業にしようという活力にもつながります。

人を導く立場であるということを常に自覚し、生徒に「先生と出会えてよかった」と言われるように頑張っていきたいです。

卒業生から（特別支援）

埼玉県立騎西特別支援学校 教諭 青木 祥子（昭和61年度文学部国文学科卒業）

私は、養護学校（特別支援学校）に勤務するようになって23年目になります。初任から3年間は、神奈川県の子体不自由児のための養護学校の高等部に勤務しました。ここでは、排泄と食事指導に関わる時間が授業の大半をしめている感があり、新任だった私は、自分の思い描いた教師の仕事のイメージとのギャップにとまどったのを覚えています。しかし、自分にとって障害児教育は、第一希望であり、貴重な体験がたくさんありました。中でも心に残ったのは、家庭訪問でのことです。それは、言葉のない座位のとれない全介助の女生徒の家で、彼女がその家の一番真ん中の部屋の真ん中に堂々と寝ていたことです。私は、これを見てその生徒がこの家の中でいかに大切にされているかがわかり、それどころかこの家族にとって中心的な存在であることがわかりました。彼女は、そのかすかな手の動きや微笑で、家庭内を明るくしていたのです。どんな障害のある人間にもそれぞれに生まれてきた意味があるということを私は自らの体験で知ることができました。この頃はそんな発見の連続でした。私は、音楽の専科ではありませんが、養護学校で音楽を教えるようになって20年、卒業生にまで余暇活動として教えていますが、そのきっかけを作ってくれたのも、障害の重い子ども達が音楽によって生き生きと自分を表現する姿を目の当たりにしたからです。

その後は採用試験を受け直し、埼玉県の知的障害児のための養護学校に移り、高等部を2校15年経験しました。この2校では、卒業後にいかに社会のなかで生きていくかが中心課題でした。ほとんどの生徒は、身体に不自由はありませんでしたが、言葉がなく、日常生活を一人で行うのが難しかったり、全て自立しているにも拘わらず精神的なケアが必要な場合が多くありました。その中で学んだことは、どんなに障害が重くても家庭の育て方次第で日常生活の力やコミュニケーションといった社会で自立できる力を身に付けることができるということでした。卒業生の音楽活動もここでの経験を受けて始めたことですが、そのように余暇の充実と保護者のサポートが、卒業後に仕事を長く続ける秘訣です。

現在は、また学校が変わり、初めて中学部を担当して5年目になります。高等部に比べ、

中学部の3年間の成長はとても大きく、学校での取り組みがそのまま子どもの成長につながるので、教師としての醍醐味が多く感じられる年代ではないかと思います。正に教師の力量が問われます。

最後に私が今までの教員生活で大切にしてきたこと3つを紹介します。1つは、子どもを好きになるということです。これは当たり前なのですが、実は時々難しいことでもあります。それは、教師も人間なので気の合わない生徒もいるからです。そんな時自分の場合、好きな「ふり」をします。そうしているうちにまず子ども方からこちらを好きになってくれるようで、いつの間にか自分もその子どもが好きになっているのです。皆さんも是非試してみてください。またもう1つは、褒めることです。子どものどんなに困った行動であってもそれには必ず理由があります。その理由を考えるためによくその子どもを観察し、問題行動に焦点を当てて減らすのではなく、ほんのわずかでもよいところを見つけて伸ばしてあげることです。すると、子どもは自信をつけ、いつの間にか問題行動も小さくなっていきます。この「褒める」ことは、子どもだけに限りません。保護者に対してもです。保護者の良い点を評価し、信頼関係を築くところから全てが始まります。この信頼関係なくしてはどんな素晴らしい教育実践も通じないし、家庭で実行できないなら本来の力とはならないからです。

どんなに障害の重い子どもも健常な子どもも皆一人一人必ず良い面があります。それを見つけたし伸ばしてあげることが、私達教師としての一番大事な仕事であり、生き甲斐であり、喜びでもあります。



教員採用試験体験記

文学研究科英語英米文学専攻修士課程3年 舘島 あい

10月2日、私はついに念願の教員採用試験合格通知をいただき、夢を一つ叶えることができました。3年前に下した、教職に進むために大学院へ進学するという決断が報われたと思いました。大学3年次の春休み、周りに流されるようになんとか就職活動を始め、1社から内定をいただくことができました。しかし、自分の将来に疑問を感じた私は、考え抜いた末、教職を目指すために大学院へ進学することを決意しました。私の決断を後押ししてくれた両親、田邊先生を初めとする諸先生方には、心から感謝しています。

教員採用試験のために準備しなければならないことはたくさんあります。専門科目である英語教育や英語力についてはもちろんのこと、教育公務員になるにあたっての教養や、社会人としての一般常識についても勉強しなくてはなりません。幸いなことに、私はTOEIC のスコアが基準以上に達していたために専門科目が免除され、専門教養を勉強する時間をすべて教職教養にあてることができました。それであっても、教職教養は教育原論・教育史・教育法規・教育心理など幅が広くて手こずりましたし、一般常識である国語・数学・理科・社会、さらには時事問題についても敏感でなければなりません。さらに最近では一次試験で小論文を課す自治体が増えています。よって、小論文についての対策も必ず必要となります。小論文を書く力は一朝一夕では身につけません。日々コツコツと書く練習をしておかなければ、直前で慌てることになります。

これらのことを短期集中型で詰め込むのは限界があります。(最低でも) 採用試験の1年前くらいから、まずどのように試験対策を

進めていくか、自分なりの計画を立てることをお勧めします。私のゼミの先輩であり、東京都教員採用試験に現役合格した横瀬喬哉先生(2004年度卒業生、現東京都高校教員)は、1年次から準備を始めていたそうです。計画の立て方に迷ったら、採用試験対策本(『教職課程』、『教員養成セミナー』, etc.)を参考にするのも一つの方法です。対策本には、出題傾向や教育時事での重要な話題など、有益な情報が満載ですので、ぜひ読んでみてください。

二次試験や面接試験に関しては、一次試験と対照的に、あまり回答などを準備しすぎない方がかえってうまくいくと私は思います。その場を取り繕うだけのために用意した回答は、面接官に簡単に見抜かれてしまいます。

そのような回答を頭に叩き込むことよりも、教師になるにあたっての自分の信念をもつことの方がよっぽど重要だと思います。教育や教師という職業について自分なりの考えをきちんと持っている、たとえ面接で想定外の質問をされたとしても、落ち着いて自分の考えを述べることができます。信念から生まれた言葉は、相手に必ず伝わります。

教員になるためには、想いを持続させる力が最も大切なことだと思います。想いを持続させることができれば、日々の勉強などで落ち込んだ時ずっと立ち直り、前を向くことも、難しいことではないと思います。想いは力になり、そこから生まれた力は夢を叶える原動力となります。私は一つ夢を叶え、今、次の夢を実現させるチャンスを手に入れました。ですが、これはただの出発点到過ぎません。これから想いを持続させて、未来の生徒たちのために最大限の力を発揮させていこうと思います。



辞書



切り貼ノート1



切り貼ノート2



切り貼ノート3

教員採用試験体験記

文学部英語英米文学科4年 佐藤 龍一

平成21年度横浜市教員候補者採用試験に合格することができ、4月から夢であった小学校の教壇に立つことになった。教員になるためにむしゅらに勉強をしてきた2年間を振り返り、体験記としてここに記したいと思う。

小学校教員を志した理由は、人を育てることに重きをおく教育に携わりたいと思ったからである。以前は中学校かあるいは高校の教員を目指していた。教科は大学での専門である英語。しかしながら、教職の授業で教育原理、教育心理、教育法規などの教育に関する幅広い知識を得るうちに、私の一番の関心は「教科としての英語」から教科という枠組みを超えた「人間教育」へと広がっていた。

小学校教員免許は、本来ならば卒業してから通信制の大学で取得しなくてはならない。しかし、幸運にも在学中に取得できる制度が専修大学にもあることを知り、小学校教員特別養成プログラムに2年次末に申請し合格した。そして在学3年次から、専修大学の勉学と並行して、提携大学である玉川大学で学ぶ日々が始まった。

二つの大学で勉学を両立するということは、予想以上に大変なことであった。通信制のテキストで学ぶ教科はすべて小学校に特有の科目であり、教育という分野こそ同じではあるが、私にとってまったく未知の世界であった。何もかもが新しいため、知識を深めるにはかなりの時間がかかった。また、専修大学が夏期休暇に入ってから科目履修というかたちで実際に玉川大学に行き、夏休みを返上して講義を聴講した。

また、4年次に控える教員採用試験のために、国語、算数、理科、社会の主要教科や音楽、体育、家庭科、生活科や特別活動などの教科について参考書を使って独学で学んだ。ピアノの練習をするために日払いのアルバイトを

し、貯めたお金で電子ピアノも購入した。

はじめに大学での専攻が英語であることは述べたが、こちらにも疎かにはしなかった。「外国語活動」という形で小学校教育に英語教育が導入されたこともあり、大学での英語学習に加えて、数多くの学会や講習会に参加し、常に新しい理論や情報、技術を得ようと心がけた。節約のため鈍行列車で丸1日かけて福島や鳥取の学会にも赴いた。

今回の採用試験を通して思ったことは、ありきたりではあるが、「やれば結果はついてくる」ということである。逆にやらなければ実るものは何もない。しかし、先が見えない状況というのは誰でも不安なものである。実際、私も暗中模索の日々を送った。自分のやっている勉強が本当に身になっているのだろうか。勉強しても採用試験に落ちるのではないか。教職は自分が本当に進むべき道なのだろうか。様々な不安が交錯する中、断念してしまいそうになることもあった。しかし、合格の知らせを受けた時、それまでの努力は決して無駄ではなかったことを実感した。

「最近の人は継続力がない」という人がいるが、私もその内のひとりである。何かと自分の都合の良いように言い訳をつけて、どこかで腰を下ろし休んでしまいたくなることもあった。しかしそんなとき、私の背中を後押ししてくれたのは恩師の田邊祐司先生や仲間のゼミ生である。周りの支えがあることに感謝をし、毎日少しずつでも様々なものに触れ、同時進行で着実に物事をこなしていくことが、採用試験のみならず、やりたいことを成就させるために必要なことだと感じている。

合格したとは言ってもまだスタートラインに立ったにすぎない。私の学びの日々は決して終わりではない。支えてくれた皆に感謝を込めつつ、また一歩前に前進していきたい。

教員採用試験体験記

平成20年度文学部人文学科卒業 小泉 実穂

私は早くから高等学校の地理教員になりたいという夢を抱いていました。しかし、皆さんご存じの通り、中・高等学校の教員採用試験は倍率が高く、これに合格し採用される人数はごくわずかです。さらに高等学校の教員になるためには、高度な専門知識が要求されます。

自分の将来について真剣に考えるようになったとき、地理歴史科教育担当教員のすすめもあり、大学院に進学することを決意しました。高校の地理教員に必要とされる学力と資質を身につけるためです。そして大学院在学中に、東京都教員採用試験、東京私学適性検査、一般公募試験などを受験しました。その結果、私立大学付属高校に採用されることとなりました。ここでは、特に私学適性検査、一般公募試験をとりあげ、私の体験を述べることにします。

私学適性検査

これは東京都の私学協会が行う適性検査で、試験内容は専門科目・教職科目の2つからなります。専門科目は大学受験レベル以上のものが出題され、公立の採用試験の問題と比較するとかなり難しく、専門的な知識を問う問題が多いようです。また、記述式であるため、知識をしっかりと身につけ、論理的に説明できる力を備えていなければ、高得点を得ることはできません。

私は書店で販売している参考書を各々数冊購入しました。基礎編から応用編まで頭の中につめ込みました。資料の読み取りや、論述問題も出題されるため、まんべんなく勉強しました。基本的なことを復習する際には、高等学校で使っていた教科書を活用しました。通学する電車の中など、時間を見つけては繰り返し読むようにしていました。

一般公募

学校のホームページ等を見ると、「教員採用」という文字が出ていることがあります。受験希望者はこれを見逃さないように注意し頻繁にチェックをしなければなりません。見つけることが出来たらチャンスだと思って、応募してみると良いと思います。実は私もこの方法で見つけ、応募し試験を受け、採用されました。さらに言うならば、10月より前に見つけ、応募し、受験することが望ましいと思います。なぜなら、10月になると公立の採用試

験の2次試験の発表が各都道府県で相次ぎます。ここで不採用となった教職志望者が、一般公募を探し始めるからです。

ここでも筆記試験が課せられます。この場合、学校が独自の試験を行なうため、対策をたてにくいのですが、私は私学適性と同様の方法ですすめました。一般公募の場合、筆記試験、模擬授業や面接の可否決定に占める割合が高いと思います。模擬授業20分、面接40分というパターンもあったため、しっかりと準備して臨む必要があると思います。ある高等学校の面接試験で私が質問された項目は以下のようなものでした。参考にして下さい。

- ・数多くある私学の中で、本校を選んだ理由は何か。
- ・今回の模擬授業で一番伝えたかったことは何か。
- ・本校の教員になったらどのような教育をしたいと考えているか。
- ・私学と公立の違いはどのような点にあると思うか。
- ・大学および大学院ではどのようなことを学んできたか。

私学は学校により、教育理念や目標が異なります。それをきちんと把握し、それを念頭に、自分はその学校でどのような教育をしたいと考えているかを熱く語る必要があると思います。私は面接の最後に「本校が必要としているのは、知識ばかりを重視している偏った人間ではなく、我々と一緒になって、学校を良くし、作り上げてくれる人材を求めています。」と言われました。最終的には、やる気・熱意、その学校の校風と適合しているかどうかで合否を判断されるように思われます。

最後に

今私は4月からの勤務に備え、教材研究に追われています。恥を忍んであえて言えば、理解できていないことや知らないことが多くあります。そのため、不安に襲われることもあります。しかし、勉強することでしかその不安を解消することはできません。みなさんもおそらく自分の将来について不安を抱えていると思います。そんな時は、今できることを一所懸命取り組むことしか解消の方法はありません。努力を重ねればきっとその夢は実現します。みなさんが先生になれることを応援しています。頑張ってください。

教育実習を終えて（国語）

豊後高田市立真玉中学校 文学研究科日本語日本文学専攻修士課程2年 田中 智也

6月1日から19日間、私は母校の市立真玉中学校で実習させていただきました。教育実習は自身、2度目だったので実習直前までそれ程、不安に思うことはなかったのですが、いざ実習が始まり校舎に入ると、懐かしさと同時に期待と不安の入り混じった緊張感のようなものを感じました。

私が配属されたクラスは2年生のクラスでした。私の母校は生徒数が少ないため、各学年1クラスしかありません。私が中学生の頃より生徒数は少なくなっていました。皆、素直そうで、かわいらしいという印象を受けたのを覚えています。担当のクラスの教室に入ると、やはり私の事を探っているような警戒した目、私の緊張がうつったのかクラスの生徒達も緊張している空気を感じました。たしかに最初はすぐに仲良くなれるのかと感じたのですが、すぐに、まずは生徒達の名前を覚えて、自分から積極的に話しかけて生徒達と仲良くならなくてはと思い直したのです。実習1週目は学校行事の関係から教壇実習がないことが分かっており、教科指導の先生からも、1週目は授業見学と生徒とのコミュニケーションに充てて下さいと言っていたので、比較的、気楽に過ごすことができました。その甲斐あって、自分が参加していた部活動の生徒を筆頭にすぐ打ち解けることができ、そうすると毎日実習に行くことが楽しくてしかたありませんでした。

2週目の途中から教壇実習が始まりました。1週目に授業見学等の時間を多くいただき、教材研究の時間もそれなりに確保できたので、ある程度気持ちにゆとりを持って教壇実習に臨むことができました。実際の授業も目標の範囲まで授業を進めることができなかったものの、授業の流れや生徒の反応を見るなど落ち着いて授業ができていたと教科指導の先生に言っていただけました。しかし、自分に手ごたえはなく授業進行、授業のペース配分は最後まで課題となってしまいました。それでも、1週目に積極的に授業見学をし、生徒の授業中の反応や、クラス全体の理解度、また教科指導の先生の授業の流れなどを徹底的に観察し、可能なかぎりメモをとっておいたことが少なからず、教壇実習に活用できたのでは

ないだろうかと思います。私にとって教壇実習で1番苦労したことは、教材研究をしていく中で、授業中の生徒の学習活動に「読む・書く・聞く」という活動をバランスよく、1時間の授業の中に取り入れ、なおかつその3つの活動のどれを中心に置くことが、自分の伝えたいことをより生徒に伝えることができるのかということ意識して教材研究や授業計画を立てることでした。そのような意識を持って教材研究などをしたことがなかったので、新鮮でした。教科指導の先生のご助言により、このような意識が芽生えたことがこの実習の中で大きなものとなりました。この意識が芽生えたことによって、生徒に自分が伝えたいことを効率よく伝える方法（ワークシートやペアワーク、課題など）やその方法の意義を考えるようになり、教材研究をしていく上で視野が広がったと思います。

そのような教材研究をしながら、教壇実習をしていく中で辛かったことは、私は各学年で授業をしたのですが、各学年1クラスしかないということで、教壇実習の度に教材研究をし、1回の授業が1発勝負で使いまわしがきかなかったことです。同じ授業を各クラスで何度かできれば、どこがよくてどこが悪かったのか比較しやすかったのですが、そんな教壇実習でしたが、自分がしっかりと準備すればそれなりの反応が生徒から返ってくるし、説明に行き詰っても、一生懸命説明すれば生徒には伝わるということを改めて感じました。それが教壇実習の醍醐味だと思います。

実習を終えてみて、感じることは、本当にあっという間に3週間は過ぎていき、その3週間の経験は本当に貴重でかけがえのないものであるということです。だからこれから教育実習に臨む皆さん、不安に思うことも多々あると思いますが、楽しみにしていていいと思います。実習が終わった後の達成感、充実感、感動。あれは何とも言えません。そして、自分が本当に教師になりたいのか改めて考えてみて下さい。私は教師になりたいと心から思いました。皆さんも教育実習1日1日を大切に、より多くのことを感じ、学んで少しでも教師になりたいと思ってほしいと思います。



教育実習を終えて（英語）

私立専修大学北上高等学校 文学部英語英米文学科4年 中塩 彦乃

私は、母校である私立専修大学北上高等学校で6月23日から3週間教育実習をさせていただきました。母校に行くのは卒業して以来でしたが、お世話になった先生方がほとんどいらしかったのもあり、懐かしく安心しました。生徒として3年間通った高校でしたが、実習生として校舎に入り、教師という視点で生徒達と接することに不安だらけでした。そして実際に生徒を前にしてみるととても緊張してしまいました。

配属クラスは普通科2年C組で、男女共にスポーツが好きで部活をよく頑張っている活発なクラスでした。初日の朝のSHRでの生徒の警戒した様子に少しとまどいましたが、毎日の朝と帰りのSHRと清掃という短い時間に、明るく積極的になるべく沢山生徒に声をかけるようにし、交流を持つように心掛けました。クラスマッチという学校行事が重なったこともあり、話しかけても素気ない態度だった生徒達とも次第に打ち解けることができました。

最初の1週間は授業見学や教材研究を行いました。授業見学では、英語、WT、RD、OC、他にも国語の授業、他学年、他クラス、いろんな先生方の授業を見学させていただきました。先生の発言内容、生徒の反応、導入の仕方など気になるところは全てメモをとり、自分の指導案に取り入れるようにしました。教材研究でも、教科書内容に沿った面白い導入、展開、まとめの構成や生徒が興味、関心を持ちそうな内容の雑学、日常で使えるような英会話などの資料集めをして、深く内容を掘り下げていきました。

教壇実習1日目。とにかく緊張してしまい途中で頭が真っ白になってしまったり、声が震えてしまい、抑えることに必死でしたが計画通りに進めることができました。導入では授業を聞いてくれる生徒達でしたが、文法になると寝てしまうという反応、どうすれば生徒達が授業に参加してくれるかというのが課題として残りました。指示の出し方や声の大きさ、チョークの色の使い方、板書計画などさまざまな工夫をし、試行錯誤の毎日が始まりました。毎回の授業の後に失敗したところを

自分で振り返り、考えて整理するようにしたので2回目の授業からは失敗の数が減り、自信を持って授業ができるようになりました。

私が特に苦労したのは導入と音読練習でした。生徒を授業に惹きつける導入の仕方の工夫に非常に悩みました。プリントを作成し授業に慣れさせ、なるべく質問をなげかけて生徒の反応を見るようにしました。音読練習でも全体で読んだ後に1人で読ませる、ペアで読ませるなどさまざまなパターンで行いました。もちろん全ての授業が上手くいったわけではありませんでした。反省点ばかり残る授業をしてしまった時は、生徒達に申し訳ないと思いました。そのたびに「明日はもっと頑張ろう」と授業の準備にも力が入りました。

実習を終えて、3週間という短い間に多くのことを学び、自分自身の考え方にも大きな影響を与え、貴重な経験をすることができました。寝る間もないほど授業の準備をしたり、教育する大変さを思い知らされたりと苦労もありました。しかしそれ以上に生徒達と過ごす時間は楽しく、喜ばしいものでした。そして忙しい中指導して下さった指導教官の先生、貴重なアドバイスをしてくださった先生方には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。また、私の授業を聞いてくれた生徒の皆さんも本当にありがとうございました。

最後にこれから教育実習を行う皆さんへ。教育実習は本当に大変です。しかし、生徒達が大変さを忘れさせてくれます。実習を楽しんで、いい思い出を沢山作ってきて下さい。有意義な実習を行えるように頑張ってください。



教育実習を終えて（公民）

栃木県立さくら清修高等学校 経済学部経済学科4年 渡辺 幸広

1. はじめに

私は、母校である栃木県立さくら清修高校で教育実習をさせていただきました。2005年氏家町と喜連川町が合併し、さくら市が誕生したとき、県立氏家高校と県立喜連川高校も合併し、現在のさくら清修高校になりました。私は氏家高校の卒業生です。

氏家高校は日本で初めて総合学科制を導入した高校として有名であり、さくら清修高校もその伝統を引き継ぎ、総合学科制を導入しています。それゆえ、多くの授業科目が開講されていることと、多種多様な専門領域を持つ数多くの教員を抱えていることが、本校の大きな魅力の1つです。

2. 実習の概要

現在のさくら清修高校は1学年6クラス、3学年合計18クラスで構成されております。私は公民科の教員免許を履修しているため、担当教科は1年次配当科目の『現代社会』でした。指導教諭は1年5組の正担任であり、同じくHR担当も1年5組でした。授業を担当したのは1年5組と1年6組の2クラスです。私の実習は2週間であり、その間に教壇実習は5組と6組の授業をそれぞれ3回ずつ、計6回授業をさせていただきました。教えた範囲は経済分野の物価変動、景気変動、財政金融政策です。

3. 教科指導

教科指導にあたっては、とにかく「大きな声」で授業することを心がけました。これは本校の学校長にご指導いただいたことや、大学で模擬授業を行った際に「声が小さい」との指摘が多かったためです。実際、生徒を寝させないほどの大音量で授業できただけでなく、すれ違った生徒には必ず挨拶するように心がけました。

また、私の授業を参観して下さった先生方から、「授業のつながりがない」とのご指摘をいただきました。具体的には、景気変動から財政政策の話へ移る際に、私はその2つを結び付ける作業をしなかったことです。

4. 生徒指導・進路指導

教材研究はなるべく家で行うことにし、私は学校にいる時間の多くを授業参観と生徒指導・進路指導に充てました。空き時間は積極的に他の先生方や実習生の授業を参観させていただいたうえに、3年次生のクラスを中心に「進路座談会」をさせていただきました。そのため、1年次生以外のクラスの授業に参加する機会が多くあり、1年次生から3年次生まで、幅広い生徒と交流を持つことができました。放課後には2、3年生を中心に、多くの生徒に

対して進路指導を行い、2時間ほど生徒指導（と言っても、寄り添って話を聞いてあげただけですが）も行うことができました。多くの生徒の話を聞いたことがとても印象深く残っております。

5. 総括

「学問に無駄なものは一切ない」

これは、私が氏家高校の2年生の時の担任だった数学の先生が、受験勉強を嫌がる私に対して教えてくださった言葉です。当時は理解不能でしたが、今はこの言葉を教訓とし、日々、勉強・研究に没頭する大学生活を送っています。

私は神田一部開講の経営学部・嶺井正也教授のゼミナールに所属しており、「教育法・教育行政」を専門に論文研究を進めています。それゆえ、今回の実習は、実際の教育現場を知ることができる極めて重要な体験になりました。とりわけ、教員免許更新制導入や学習指導要領改訂にゆれる教育現場の現状について、現場の先生方の意見をうかがえたことはまたとない機会でした。

6. 結びにかえて：後輩へのメッセージ

教育実習にあたっては、とにかく「大きな声」で挨拶をすること、授業をすることをごろがけてください。大きな声で挨拶するだけで、生徒や先生方から好印象を得られますし、どんなに授業の内容・構成がしっかりしていても、ボソボソと話しているのでは生徒に伝わりません。

また、本気で教員を目指している方は、早いうちに採用試験の勉強に取り掛かるだけでなく、教科書を勉強すること（教材研究）にも取り掛かってください。より良い授業をするためには、教材研究を通して豊富で確かな知識を増やすことが不可欠です。そして授業がしっかりできなければ、最終的には生徒にバカにされてしまいます。

最後になりましたが、後輩の皆さんが実りある実習ができることを、心より期待しております。



教育実習を終えて（商業）

岐阜県立中津商業高等学校 商学部マーケティング学科4年 羽柴 慶人

2週間という長いようで短い期間、母校である岐阜県立中津商業高等学校で教育実習を行いました。教育実習を行う前は、実習校が母校であるという安心感の一方、自分が教師として生徒の前に立って授業を行えるのか不安でいっぱいでした。しかし、実際に実習を行ってみると、生徒から「先生」と呼ばれる新鮮な環境で教師として生徒と触れ合う中で学ぶことは多く、とても有意義な時間を過ごすことができました。

教育実習では1年生の情報処理を担当させていただき、学習内容を説明した後コンピュータを使用して生徒が実習を行うという形式で授業を進めていきました。実習初日は授業を見学し、実習3日目に初めての教壇実習を行いました。教壇実習にあたって、授業展開を計画する段階で何を重要視して授業を進めるかを考え、生徒が理解しやすく興味も持てるようにPower Pointを使用して説明するなどの工夫をして授業に臨みました。初めての50分間授業で教壇に立った時は、緊張のあまり説明が早口になるなど、反省点が多く残りましたが、その後は担当の先生からご指導いただいた反省点を改善しながら次回以降の教壇実習に繋げていくことができました。その甲斐もあって、それ以降の授業では細かい反省点は残ったものの、生徒の表情を見ながら授業を進めることができるようになりました。

実際に自分で授業をしてみて、自分が生徒の時はわからなかった先生の大変さがわかり、授業をする上でも大切なことを2つ学びました。

1つ目は進行度合いです。商業科目は高校から学ぶ科目であり、事前知識は異なりますが、スタートラインは皆同じです。だからこそ基礎が一番大切であり、1年生で学習する内容が重要になってきます。そのため、出だしで遅くと、その後の学習内容が理解できないまま授業が進んでしまうこととなります。そのような事態を防ぐためにも、生徒にどの範囲にどれだけの時間をかけるのか、そして、どこが重要なのかを的確に説明し理解させることが必要だということを、実習を通して感じました。

2つ目は学習内容の理解が困難な生徒への対応方法です。授業の進み具合を、時に理解できない生徒に合わせることも必要ですが、それでは理解が容易い生徒にとっては物足りず、退屈な授業となってしまう恐れがあります。そのため、その中間の理解度の生徒が理解できる程度で授業の説明を行い、生徒が実習を行っている間に、説明だけでは理解できなかった生徒に期間指導を通して、直接指導を行うのが良い方法であるということがわかり、授業での学習内容を、どのレベルで全体へ説明するのかを考えて指導にあたる必要があるということ学びました。

また、教育実習期間には、学業だけでなく部活動にも積極的に参加しました。学業だけでなく部活動も盛んであり、生徒と一緒に取り組んだことで生徒との距離も縮まり、仲良くなることができました。そして休み時間等に、気軽に話すことができました。それもあり、最終日にはクラスの生徒全員から手紙や色紙をもらい、とても嬉しかったです。

至らない点も多くありましたが、教育実習を通して、多くのことを学ぶことができました。担当の先生をはじめ指導して下さった先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

最後になりましたが、これから教育実習を迎える皆さんにはとにかく楽しんで教育実習に臨んでもらいたいと思います。不安なことや大変なことも沢山あるとは思いますが、それ以上にかげがえのない貴重な体験が出来る機会です。私の体験談が参考になれば幸いです。後悔しないよう、精一杯頑張ってください。



教育実習を終えて（情報）

神奈川県立平塚江南高等学校 ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年 白石 貴規

1. 生徒とのコミュニケーション

5月30日から3週間、母校である神奈川県立平塚江南高等学校で教育実習させていただきました。母校へは卒業後も部活動に参加するためによく行っていたので、顔を知っている生徒がいるため、当初教育実習は比較的楽になると考えていました。しかし、実際に実習が始まってみるとこの考えは甘かったということに気がつきました。HR担当が2年で授業が3年という状況での実習になってしまい、HRクラスの生徒とは朝と帰りのHR時のみ。3年に関しては、1クラス週に65分の授業が1、2回しかない。また情報の授業は実習という形なので、基本的に生徒と話すという場面が少なかったように感じました。肝心の部活の後輩も、教師と生徒との立場になってしまうと話しにくくなるらしく、上手くコミュニケーションをとることが出来ませんでした。そんなとき、「これまでは先輩後輩の関係でも、教師と生徒の関係になってしまったとお互いに身構えてしまうもの。」と担当教諭に教えていただきました。

身構えず生徒とコミュニケーションをとるため、3年とは机間指導の時に頻繁に声をかけるなどしてコミュニケーションをとるようにしたところ、授業後や廊下ですれ違った時に生徒から話かけてくるように。また、HRクラスは放課後掃除を一緒にしたり、放課後少し残って話したりし、少しでも一緒にいる時間を作るようにしました。また生徒を名前で呼ぶことが、生徒とのコミュニケーションをとる一番の方法なので、これから実習がある人は早いうちに生徒の名前と顔を一致させるようにしたほうが良いと思います。

2. 教壇実習と授業準備

高校で情報の授業を受けていなかったため、どういった授業なのかよくわかりませんでした。初めの1週間は授業を見学する予定でしたが、実際に授業は1週間目から始まってしまいました。最初の授業は、途中で自分が何を言っているのかわからなくなることや、説明を飛ばしてしまい、頭が真っ白になってしまいました。担当教諭との事前打ち合わせでは、進行を分刻みで確認し、指導案も何度が書き直したので、授業は上手くいくのではないかと考えていたが、考えが甘かったです。授業後の反省会で、「指導案通りの時間で進まなくても気にしないでいい。ずれは起きるもの」と教えていただきました。確かに私は指導案

通りに進めようとするあまり、ひとたび進行がずれてしまうと焦ってしまい、頭が真っ白になっていました。だからこそ、2回目からは良い意味でずれは仕方ないものだと開き直すようにしました。開き直すといっても、打ち合わせは何度も行い、そのたびに指導案を修正し、教材の準備もしっかりと行うようにしました。予想される質問や提示するヒントなど下準備を特にしっかりとするようにし、決して手抜きをしたわけではなく、開き直ることで心にゆとりをつくるようにしました。その結果、咄嗟の場合にも対応できるようになり、頭が真っ白になることがなくなっていました。

生徒の反応は授業を行う際にとっても重要です。見学であっても各クラスの反応や雰囲気を知ることは、自分の教壇実習にとってヒントになると思います。また、困ったことがあれば担当教諭や同じ実習生に相談することも、よりよい授業を作るのに必要になると思います。

3. 実習を終えて

3週間の実習を終え、コミュニケーションはとても重要だと感じました。生徒とのコミュニケーションは授業を行う際に重要になり、先生方とのコミュニケーションは授業の準備をする際にとっても参考になることを得ることが出来ます。コミュニケーションを取るためには、まず実習を楽しむことだと思います。ただ楽しむだけでは教育実習の意味がなくなってしまうかもしれませんが、楽しむことの先に得るものが多くあります。

大変なこともあります、これから教育実習がある方はがんばってください。



教育実習を終えて（数学）

東京都大田区立大森第一中学校 ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年 清田 裕美子

4年生になったばかりの4月、5月に実習を控えていた私は不安と期待でいっぱいでした。実習校は母校ではなく同じ区にある中学校で、ほとんど何もわからない状況でしたが、先生方は温かく迎えてくださいました。

授業について

担当は1年生でした。学校が授業で少人数制を取り入れているので、クラスの全員を相手に授業することはなく、基本的に指導教諭の担当の2クラスの授業を行いました。ですが、たまに他の先生の代わりに授業を頼まれた時もあったので、全学年の授業を経験することが出来ました。

授業をするといっても実際にどのように授業を進めているのか最初はわかりませんでした。まずは1週間程度実際に授業を見学し、流れを見て自分の授業のイメージを作っていきます。先生の授業や生徒の取り組み、生徒へのアプローチの仕方など、先生や教科によって違うので授業見学は積極的に行っていました。

数学はほとんど毎日授業があるので、毎回の授業でしっかりとした指導案を作るのではなく、ノートに授業の流れや、板書計画を立てながら授業をしていました。その授業で抑えてほしいことを明確にするのが大切だと思います。

生徒とのコミュニケーション

授業よりも難しいのが生徒とのかかわり方だと思います。中学1年生の5月は小学校からあがったばかりでとにかく元気で活発です。しかも、ほとんどみんなが同じ小学校からあがってきているのでみんな仲が良いので、緊張感はあまりないという感じでした。

中学校は給食や掃除の時間があります。指導教諭からはとにかく中に入って生徒とかかわりを持つことが大事だと教えていただきました。給食では一緒に配膳をしてやり方を教えながら自分も手伝います。掃除も生徒と一緒に掃除をします。生徒は自分たちと同じ事をしていると次第に心を開いて話してくれるようになります。移動教室のフォークダンス

の練習も中に入って一緒に踊りました。些細な事かも知れませんが、生徒と一緒にの事をして一緒に時間を過ごす事が子どもたちにとって信頼を生み、親しみを持ってくれるようになります。授業の準備も忙しいですが、休み時間や部活の時間を生徒と過ごす時間を大切にしていました。

実習中に感じたこと

教育の現場の中にいると本当に先生方の大変さが身に染みるようにわかんと思います。中学校は問題が何もない日の方が珍しいくらい毎日先生は動き回っています。とても忙しいようにしているのでつい遠慮してしまいがちなのですが、気になったことや心配な点ははっきり聞いてしまった方がいいと思います。学活で生徒に連絡をする時に連絡でミスがあると生徒に迷惑がかかってしまいます。わからないで曖昧にすると生徒は不安を感じてしまうので堂々と出来るように確認はしっかりするようにしていました。

学校の中にいると指導教諭に言われてから行動してしまいますが、自分から行動していくことを心がけると実習がよりよくなると思います。積極的に話を聞いたり、自分の考えを話してみたり指導教諭とのコミュニケーションをしっかりとっていると先生としての働きかけの大事さがよりわかります。

最後に

大変なことはたくさんありましたが、本当にやってよかったと思っています。最終日生徒からのプレゼントには大泣きしてしまいました。

実習は学ぶために行くものだという意識を持っていてほしいと思います。一生懸命学ぼうとする姿勢が3週間の実習を有意義なものにしてくれると思うので、これから実習に臨むみなさんにも大変なことはあると思いますが、その分子どもたちはかわいいし、自分自身にとってかけがえのない3週間になるはずですよ。とても貴重な経験だと思うので悔いの無いよう頑張ってください。

教育実習を終えて（小学校）

相模原市立相原小学校 文学部英語英米文学科4年 八木 翔平

私は10月19日から2週間、相模原市立相原小学校で教育実習をさせていただきました。市内の6年生がいくつかのブロックに分かれて行う「連合運動会」や「風っ子展」と呼ばれる図工作品の展示会、「学校へ行こう週間」などの学校行事が多くあり、忙しい時期にも関わらず教育実習を受け入れていただいたことに本当に感謝しています。

教育実習中は新型インフルエンザの流行とも重なりましたが、実習前より学習支援ボランティアとして関わっていたことも幸いし、担当学級以外の子どもたちとのふれ合いを通して多くのことを学ぶことができました。

1つ目は児童理解についてです。実習に行く以前から小学校教師には深い児童理解が必要だと思っていましたが、指導教諭の先生や他の先生方の児童理解は考えていた以上に深いものでした。様々な指導をするうえで深い児童理解が必要であり、また特に生活指導の面で重要なことが分かりました。成長段階でとても大切な小学校の時期に、教師が児童を深く知り、一人ひとりにあった指導をしっかりしなければいけないことを感じました。

2つ目は学級経営についてです。上記でも述べたように教師が児童をどれくらい理解しているかは学級経営にも大きく影響すると思います。児童理解の他に、掲示物なども学級経営に関係があることが分かりました。今回示範授業で多くの先生方の教室を見学することができ、教室の掲示物は特に先生の学級経営の特色が出ていることを感じました。また先生方と実習中多く話しをさせていただき、様々な面で学級を経営することはとても難しいことだと思いました。

3つ目は指導力についてです。今回教壇実習をさせていただいて、指導することの難しさを改めて感じました。低学年を授業する機会をいただきましたが、低学年の児童はまだ私自身の半分も生きていなく、これからたくさんのかを学校生活や日々の生活などから勉強していく時期だと思っています。教材研究をし

ていく中でこの単語は低学年の児童には分かるのか、この表現は分かるのか、またこの漢字は習っているのかなど児童の学力に合わせた指導をしなければいけないと考えながら教材研究を行いました。また低学年の児童に指導するには「例」や「見本」がとても大切なことが分かりました。教師がいくら細かく説明しても、児童は理解しづらいことを肌で感じ、算数など主要教科では「例」を一緒に考え、体育など実技科目では「見本」などを見せることが重要だということが分かりました。この「例」や「見本」も教師が行うのではなく、児童の考えや児童のやりたいという気持ちを引き出し、それに補足的に教師が説明することで児童のより一層の理解につながるということが分かりました。

他にも多くのことを学びましたが、私はこの教育実習でとても大切なことを学ぶことができました。それは教師という仕事が一人で成り立っている仕事ではないということです。指導教諭の先生や学年の他のクラスの先生方に多くのアドバイスをいただきました。インフルエンザが流行していた中での実習だったため、養護教諭の先生にも助けられたり、「風っ子展」の時には地域ボランティアの先生に陶芸づくりに協力していただいたり、また「学校へ行こう週間」では多くの児童の保護者に声をかけていただいたりしました。そのような経験からどんな時にも他の人の支えがあって教師という仕事が成り立っていることが分かりました。「共育」という気持ちを忘れないで教師という職業を目指したいと思いました。

私は2週間の教育実習で多くの経験をさせていただきました。また、これからの自分の課題を見つけることができました。教育現場で、先生方から児童理解、学級経営や教材研究の仕方などを学ぶと同時に、自分自身の人間性を高めていきたいと思っています。児童にとって、「魅力ある教師」になれるように日々成長していきたいと考えています。



模擬授業風景

基本的に3年生の後期に履修する「教育実習Ⅰ」で行う模擬授業の風景です。翌年の、早い場合には5月に、遅い場合には10月に教育実習に行くための準備を行います。学習指導案を作成し、50分や30分の授業に挑戦します。相手が同じ大学生なので実際の教育実習での授業とは異なりますが、それでも人前に立って、50分の授業をすることは大変役に立っています。この模擬授業を受ける学生はいろいろ気がついたことを指摘し、アドバイスをしますが、これ自体、自分の授業づくりの参考になっています。

経営学部 教授 嶺井 正也



北村美樹さん（文学部3年）の模擬授業



真剣に模擬授業を受けている



奥山真一さん（経済学部3年）の模擬授業



堀越啓祐さん（文学部3年）の模擬授業



机間指導をする田所文弥さん（法学部3年）

介護等の体験を終えて

法学部法律学科3年 諏訪本 真美

1. 特別支援学校で

二日間の特別支援学校体験のうち一日目は、一人ひとり分かれて授業の体験をすることになり、私は「粘土」という授業の体験をした。クラス全員が知的障害があるというので少し不安を持ちつつも、「どうにかなるでしょ!」という軽い気持ちでいました。担当した男の子に挨拶をすると、彼は私にぎりぎりまで近づき、下から上へとみぞるように見た後にニコリと微笑んだのです。私は怖くなり、「何かされるかもしれない」とさえ思ってしまいました。すると先生が「ちゃんと挨拶できたんだ。えらいね。」と彼にいったのです。私は、「今のが挨拶??」と思いながらも授業に入りました。

「じゃあ〇〇君は前回と一緒に粘土を叩いてね。」私はびっくりしました。粘土でなんかを作るのではなく、彼は叩くだけの作業を毎回やっているのです。他の子も障害の程度によって一つの作業を繰り返し、粘土でモノを作る子はほんの一握りでした。その子たちも作るものが決められ、同じものを何個も何個も作るという作業をしていました。

作り終わった粘土は売るそうです。「これって工場?」授業の雰囲気はとても楽しそうでしたが、一歩間違えれば工場に見えてしまうような分担任と作業でした。後から聞いた話、確かに少しずつではあるが障害者の就職はしやすくなってきています。しかし難しいのが現状で、働くためには一つの作業をもくもくやれるのが最低条件とされているのです。そのため就職するための訓練として、このような授業の形をとっているのです。きっと動物や乗り物などいろんなものを作りたいだろうに。障害のある子どもにとっては粘土と言う遊び道具ですら働くための訓練となっていることに驚きと何か寂しさのようなものも感じてしまいました。その子はとても覚えが早く、どんどん一人で作業をこなしていきました。私は「私、必要ないじゃん。」と思いながら、「見てみて。」と呼ばれ違う子のところに行ってしまったのです。すると彼は自分の頭を何度も何度も強くたたき出しました。私は何で彼が頭をたたき出したのかまったくわかりませんでした。すると近くにいた先生が来て「大丈夫だよ。ここにいるよ。」といって落ち着かせ彼は何事もなかったかのように作業を始めたのです。

そのとき、その子が一人になって恐怖を感じていたのだとわかりました。私は今まで生徒の挨拶の仕方、SOSの表現、などみんな同じだと思っていたのかもしれませんが。でも生徒は一

人ひとり違う。だから一人ひとりの出す小さなSOSの表現に気づいてあげなければいけないのだと知りました。

2. 特別養護老人施設で

介護施設では私は実習生一人という立場で、五日間体験をさせていただいた。施設には何度も「ご飯はまだ?」、「私の部屋はどこ?」、「何をすればいいの?」などと尋ねてくる方や、車椅子に乗りゼリー状のものしか食べられないような方、寝たきりでまったくといっていいくらいお話が出来ない方など様々な方がいらっしゃいました。私は苦しくて、苦しくてたまりませんでした。思っではいけないと思いつつも「本当にこの人たちは幸せなの?」とさえ思ってしまいました。生命倫理をはじめて身近に感じる体験でした。

一方で、「施設に来る必要あるのかな?」と思えるような方もいらっしゃり、ある方が私の手助けや励ましをして下さいました。体験最後の日、その方が今度お家に帰ると聞いて私は「楽しみです。」と言うと「居場所なんてない。帰りたくない。」と初めて聞く悲しい声で言ったのです。「どんなに年老いたって、どんなに動けなくなっても、どんなに頭がバカになっても、気持ちは伝わって来るんだよ。ここにいるみんな分らない人はいないのにね。」ともおっしゃったのです。私は何も言えませんでした。「この人はわからない。」なんて、そんなことは決してないこと、そしてそれを知り傷つきながら笑っている人がいることを知りました。私は教員になった時、絶対に生徒に対して「この生徒は出来ないだろう。」とかそんなことは思っではいけない、そう思いました。そして信じること信じれば絶対に伝わることを知りました。

こうした介護等体験を通じて私はやっと教員になるためのスタートラインにつけた気がしました。そしてゴールに着いたときスタートの気持ちを忘れることなくいたい。



模擬授業で教育実習に備える

「地理歴史科教育論」に関する一考察

ーウォーキングを活用した歴史意識の育成を目指してー

商学部 兼任講師 岩田 公夫

現在は、高校全入時代と言われている。また、現鳩山内閣の下、授業料の無償化が現実味を帯び、実質的に高校の義務教育化という方向に向かっているように思われる。

このような時代背景の中で、地理歴史科教育をはじめ、社会科の学習は重要な役割を担っている。それにもかかわらず一昨年は世界史を履修させなかった高校が多数判明し、社会問題にまでなった。特に私立の進学校が多かったようである。それらの学校は、大学受験を最優先するために科目を絞り、センター試験対策を講じていたことにも一因しているのであろう。全体からすれば一部の高校にすぎないのかもしれないが、このように目先のことにとらわれた授業を展開しているようでは、真の人間形成という観点からすると将来が不安にもなる。

現行の指導要領を見ると、改善の基本方針の中で、「児童・生徒の発達段階を踏まえ、各学校段階の特色を一層明確にして内容の重点化を図る。また、網羅的で知識偏重の学習にならないようにするとともに、社会の変化に自ら対応する能力や態度を育成する観点から、基礎的・基本的な内容に厳選し、学び方や調べ方の学習、作業的、体験的な学習や問題解決的な学習など児童・生徒の主体的な学習を一層重視する。」とある。

また、改善の具体的事項の中で「地理歴史科については、現行の基本的な科目構成を維持しつつ、各科目の特質を生かして、内容を厳選するとともに、各科目で主題学習による内容を工夫し、また、科目内で内容を選択して学習する仕組みを一層拡充して重点を置いて学習できるよう工夫する。」となっている。

上記のことを踏まえて、地歴科における「主題学習」のあり方について考えてみることにする。

学校を取り巻く地域において、人々が生活している限り、そこには先人が築いた歴史の痕跡があり、歴史を引き継いでいるものである。また、村落のでき方や、村落を流れる川の道筋（流路）にも変遷があり、道のでき方にも理由があるはずである。そのような観点を念頭に置き、「まち」を歩いてみると、いろいろな気づきや疑問が生じてくる。

1、道端の観音像から平和学習

横浜の一つの地域を例にして歩いてみることにする。

横浜市営地下鉄ブルーラインの蒔田駅で下車する。地上に出ると鎌倉街道の歩道に出る。港（東）の方向へ歩みを進めると、蒔田商店街の端に地蔵ではなく観音像が立っている。お堂も朽ちて観音の立像も台座から少しずれている。区役所の広報担当者に尋ねると、地域から補修のお願いが出されているが、しかし、役所としては特定の宗教に税金を使うことはできないので苦慮している。とのことであった。

今度は地元の人に尋ねると、横浜大空襲（1945. 5. 29）の時、引き取り手のない遺体をこの場所に集めて野積みしたそうである。その後、県の方で三ツ沢競技場の近くに戦争慰霊碑を建て、県内の他の地域の無縁仏も一緒に合葬したそう。その時、一番上にあった遺体は母親がわが子をしっかりと抱いたままの姿で焼け死んだ姿だったため、その親子の遺体だけをこの地に残し、二度とこのような悲劇を繰り返さないよう願いを込め、当時の町内会有志で観音像を建立したとのことであった。

このように、観音像一つからでも平和学習が成立するのではないだろうか。

2、川の流れから近世の新田開発を探る

鎌倉街道に戻ると、すぐ目の前に吉野橋がある。橋の上に立って川の流れる方向をみると、下流に向かってそこから二手に分かれていることは一目瞭然。高校生ならそれを見てすぐ人工的に作られた川（運河）であると言えよう。ではなぜここに運河を作る必要があったのだろうか。現在の地図で確認すると、大岡川と中村川に挟まれた地域だけが碁盤の目のように道が通っていることがわかる。

橋を渡るとすぐ左手に「お三の宮」（日枝神社）という神社がある。鳥居をくぐると正面の社殿には関外総鎮守と書かれている。JRの



駅名は関内である。すると、関内と関外はどこで区切られているのだろうか？宮司さんに話を聞くと、二つの川に挟まれた地域はかつて入海であった。明暦2年（1652年）、4代將軍徳川家綱の時代、江戸の石材・木材商を営んでいた吉田勘兵衛が幕府の許可を得て、横浜村のこの入海を埋め立て新田開発に着手したのだ。11年の歳月と八千三十八両の私財を投じて完成させたそう。関外総鎮守となったのは江戸末期とのこと。

3、井伊直弼・ヘボン博士の足跡から近代史の学習へ

時代は過ぎて安政6年、横浜の港が開かれた年である。今の中学生・高校生に安政年間の出来事は？と質問したら多くの生徒は、「安政の大獄」「外国との通商条約の締結」等を挙げるであろう。そして、翌年の万延元年「桜田門外の変」で井伊直弼が暗殺されたことも知識としては持っている。

長者町から大岡川を渡り紅葉坂を上ると掃部山（かもんやま）公園がある。ここに井伊直弼の銅像が立っていることはあまり知られていない。それは、吉田松陰の門下生にとってみれば憎き仇であったであろう。また、朝廷の勅許を得ず不平等な修好通商条約を締結してしまった朝敵であったかもしれない。しかし、見方を変えれば現在の横浜にとってこれだけ発展させてくれたのは井伊直弼が横浜を開港の地に選んでくれたからでもある。

銅像が建っているこの地は、開港当時神奈川奉行がおかれていた場所である。明治になって神奈川県庁が港の近くにでき、この地は



井伊直弼の銅像

国有地として所管されていた。明治42年藩主であった彦根藩の元重臣たちがこの地を買取り、開港功績の顕彰のため銅像を建立したとされている。

このように歴史上の人物は、時代の変遷によって、また、地域によっても評価が変わることは良いのではないかな。

社会科で培う、いろいろなものの見方・考え方を養う意味でも。

紅葉坂を下りて再び野毛に戻るとヘボン塾の跡がある。安政6年開港の年にアメリカより宣教師としてやってきたヘボン氏は眼科医でもあった。ヘボン博士は医術を教え、ヘボン夫人は英語を教えていたそう。最初の塾生の中に高橋是清がいたことはあまり知られていないようだ。その後ヘボン塾は明治19年明治学院となった。ヘボン氏の医院はその後、横浜十全病院となり、戦後横浜市立大学医学部の付属病院となり発展していった。また、ヘボン塾で手伝っていたメリーキダーが女子生徒の指導を任せられ、布恵利須和英女学校（現フエリス女学院）を明治3年に立ち上げた。ヘボン博士の名前はヘボン式ローマ字として多くの人は名前だけは知っている。しかし意識して横浜の街を歩いていると、そこかしこでヘボン博士の足跡に触れることができるのである。

さて、野毛の町並みからJR関内駅に向かうと直前に吉田橋がある。生麦事件があった後、幕府はこの場所に関所を設け、関所の内側、つまり居留地や港の外国人と、貿易を営む日本の商人や荷揚げ人夫、大工等の出入りを厳しく取り締まるようになったそうである。それ以来、関内地区・関外地区と呼ばれるようになったそう。

この紙面では近現代史に偏ってしまったが感があるが、視点を変えれば一つのことからいくらかでも歴史をさかのぼって追及できるし、教師の眼力があれば「主題学習」の素材は自分たちが住んでいる地域の中に必ず散在しているはずである。

※参考文献

- ・高等学校学習指導要領解説 地理歴史編
- ・横浜市教育史
- ・神奈川県史
- ・吉田家文書
- ・お三の宮 日枝神社 略誌

専修大学教育学会に出席して

法学部法律学科3年 高津 基弘

私は、今回初めて専修大学教育学会に出席させていただきました。

今回のメインテーマは、「交流・連携」でした。学校とその他の機関がどのように連携・交流をしていくことが大切なのであるか、連携・交流を通して児童や生徒はどのように変わったのかについて報告がなされました。

その中で私が一番印象的であったのが、墨田区立文花中学校で教員をなされている梅野浩吉先生の話でした。梅野先生が教壇に立っておられる文花中学校は、夜間中学校なるものがあり、梅野先生はその夜間中学校の先生をなされています。そもそも夜間中学校とは、戦争や貧困、あるいは学制改革などの理由により中学校までの義務教育未修了者のために開設された学校です。しかし1950年前後に公立中学校併設・自主夜間中学校などの形で開設されましたが、1954年の全国82校を最多とし、現在では35校と減少しています。これは、日本の社会が経済的に安定し、中学校の学齢生徒の就労がなくなったことによる減少であり、またこの夜間中学校自体、「義務教育未修了者なら日本国籍がなくても高齢者でも入れる学校」という認知度が一般社会に低かったというのも減少の原因の一つとして考えられています。

私がなぜこの話が印象的であったのかというと、専修大学教育学会以前に夜間中学校に通う生徒との出会いがあったためです。私は、毎週土曜日に外国人に日本語を教えるボランティアに参加しています。そのボランティアの活動の中で、父が日本人、母がフィリピン人のダブルの中学三年生の女の子に出会いました。彼女は、フィリピンで生まれてから、小学校を卒業するまでフィリピンで過ごしました。中学校に進学するとき父親の仕事の関係で来日し、中学一年生の時から日本の中学校に就学をしました。彼女は就学当初は、夜間中学校ではなく通常の昼間学級に在籍していました。しかし小学校までフィリピンで過ごし、全くとっていいほど日本語の勉強をせず来日したため、クラスの友達ともあまり馴染めなかったことや学校の日本語指導が必要な外国人児童生徒の受け入れ状況が整っていなかったため、昼間学級の勉強についていけなかったというのも夜間中学校で学ぼうと決めたのだそうです。

そもそも公立の小・中・高校などに在籍する外国人児童・生徒のうち、日本語の指導が必要な人数は2008年9月時点で前年比12.5%増の2万8575人いたことが7月3日、文部科学省の調査で分かりました。ちなみにこの増加は6年連続で増加して過去最多となりましたが、「その後の景気悪化で減っている可能性がある」（同省国際教育課）という調査報告もあります。

この調査では、日本語で日常会話ができなかったり、学習に支障があったりした子どもの数を集計しており、そう考えると日本語指導が必要な人数が2万8575人いるということは、公立の学校教育の現場に日本語を指導する学級が求められているのではないのかと感じました。上で述べたように家族の事情により、外国から日本に来て、昼間学級に就学したけれども、クラスに馴染めない子や学習についていくことのできない外国人生徒は少なくないのかも知れないと思いました。そのような状況でだからこそ、今回の学会のメインテーマでもあった「交流・連携」が必要ではないのかと改めて感じました。昼間学級が夜間中学校から外国人生徒の日本語指導方法を学ぶことや、今回の話でもあったように地域の方で日本語指導ができる方をサポーターとして募集したりすることによって少しでも、外国人生徒を同年代の友達が多い昼間学級で学ばせてあげることができる方法ではないのか、と学生の立場として考えを深めることができました。

最後に、将来教員を目指している私にとって諸先生方のお話を通し、学校教育にも訴訟問題が隣り合わせで潜んでいることなどを学び、教員という仕事を少し安易に考えていた自分に気づくことができました。教員としての心がまえを持つことができたことに教育学会参加の意義があったと感じています。



専修大学附属高等学校から

「改革の中で思うこと」

専修大学附属高等学校 教諭 進路学習指導部長 長谷川 素道

「教員の魅力って何ですか？」と聞かれたとき、私は「常に生徒が目の前にいること」と答えます。授業、クラス、クラブ等で、目の前にいる生徒を如何に育て、どのような人間として社会に送り出していくかを、常日頃から工夫を重ね、丁寧に指導していくことが私達教員の大きな仕事だと考えています。

一方、本校の教員はよく「親切だ」「面倒見がいい」と言われます。しかし見方を変えればあまりにも手取り足取り面倒を見過ぎなのではないかと私自身反省しています。「素直な生徒は多いが、様々な場面でリーダーとなり、自主性を備えた生徒を育てるにはどうしたらいいだろうか」、ということ強く思うようになりました。それは、私だけではなく多くの教員が感じていたことで、「ならばもう一度教育方針を見直し、その実現に向けて教員の総力を結集していこう」と、教員が中心となって原案を作り、先日校長から新たな教育方針が発表されました。

教育方針

自主・自省・自立

本校生徒としての高い規範意識のもと、自ら考え判断し、その言動に責任の持てる生徒を育成する。目標に向かって地道に努力を重ねる誠実さを兼備し、将来社会のリーダーとして強く逞しく生きる力を培うことを目指す。

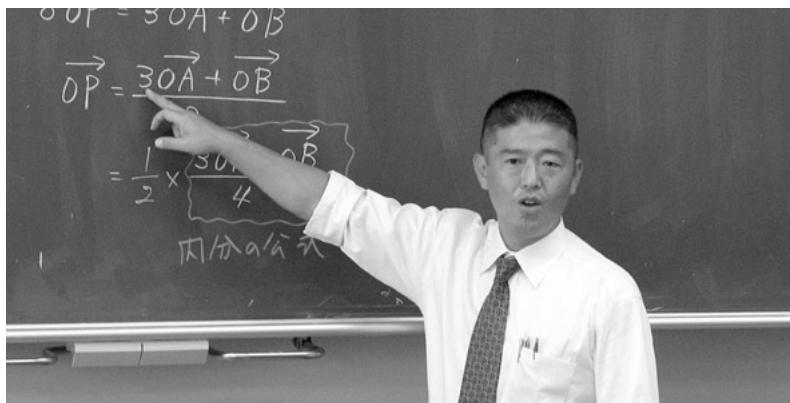
教育方針を変えることが目的ではありません。全教員の指導の統一性が大切なのです。

また、生徒に何かを求めるのであれば、ま

ずは私達教員が変わらなければいけません。「生徒の勉強時間が足りないのは我々がさせていないからだ。」「挨拶をしない生徒がいるのは私達教員がしないからだ。」と、常に教員側の姿勢を顧み、実践することで、生徒の姿勢が変わってくるのではないのでしょうか。教員側の意識改革です。私が進路指導研究会に参加した際、ある高校の校長先生が「改革とは、決して特別な事をするわけではなく、足りない所を補うだけだ。」と話されていた言葉が私の頭から離れません。生徒に求めるだけでなく、教員の意識を少し改革するだけで、私達のストレスも意欲が変わっていくのだと思います。

去る9月26日（土）に、専修大学の蔭山雅博先生、小峰直史先生にご協力いただき、「教職」という仕事をテーマに、本校で「教職シンポジウム」を開催しました。参加者は、本校教員17名、外部教員5名、専修大学教職課程履修者6名の他、教職希望の本校生徒も15名が参加しました。教員と生徒と一緒に参加するシンポジウムも初めてのことでしたが、その中で教員、生徒の両者から活発な意見があり、また生徒の真剣な眼差しに大変心を打たれました。教員の真剣な姿勢がどれだけ生徒に大きな刺激を与えるかを改めて痛感しました。

生徒の心をくすぐり、意欲をかき立てる仕掛けをもっともっと実践すれば、生徒の可能性はいくらでも広がります。そして学習面でも、「やらされる」勉強から「やらなければ」、そして「やりたい」に変わっていくことで生徒は大きく成長することを信じ、私はこれからもさまざまな工夫を重ねていきます。



司書・司書教諭課程



「図書館の“おはなし”－昔も今も」

文学部 兼任講師 汐崎 順子

1. 児童サービス論と“おはなし”

私が専修大学で教えている児童サービス論では毎年、学生に“おはなし”を語ってもらっています。この“おはなし”の実践なしには、司書の必修科目である児童サービス論の単位がもらえないという仕組みであるため、誰もが（否でも応でも）この課題に取り組まなくてはなりません。

それではこのやっかいな“おはなし”とは何でしょう？ もちろん“おはなし”という言葉にはさまざまな捉え方があるのですが、ここで紹介する“おはなし”とは、“ストーリーテリング (Storytelling)”、“素話 (すばなし)”とも呼ばれ、図書館などで子どもと本を結ぶために実践されている語りのことを指します。簡単に言えば、本に書かれた文章を丸々暗記して語るもので、絵本の読み聞かせや本の朗読とは異なります。

この“おはなし”の源流を辿ると、世界各国に存在する語りの文化にたどり着きます。人々は文字がない時代から、語り、聴き、心弾ませ、勇気づけられ、生きる知恵と自分たちの歴史を受け取り、次の世代に引き継いでいったのです。そして今、図書館での“おはなし”とは、子どもに本の楽しさを伝えるのに重要な役割を果たすもの、と考えられています。私の授業で必須としているのもそのためです。

2. 日本の図書館と“おはなし”

～明治・大正・昭和

さて、日本の図書館ではいつからこの“おはなし”が紹介され、実践されるようになったのでしょうか。大先輩の児童図書館員で、ストーリーテラーでもある小河内芳子さん(1908-)は、1907(明治40)年の『図書館雑誌』に掲載された記事が、日本で初めて“ストーリー・アワー”を紹介したものである、と述べています¹⁾。一部をここでも紹介しましょう。

米國圖書館に於ける『談話時間』
近來米國各地の公開圖書館にては兒童覽閱室主任(概ね婦人)をして兒童の為に談話をなして聴聞せしむること流行せり。談話は一定の時に於てなさるゝ事にて其時間は通例二三十分とす。之を『談話時間』(ストーリー・アワー)と云ふ。該事業の目的は兒童をして圖書館に親善ならしめ、且つ圖書館及び家庭に於ける讀書興味を喚起向上せしむるに在り。－(中略)－ 今日まで各主任者の報告する所によれば、兒童

等は皆嬉々として傾聴し、其結果次第に讀書の面白みを感じ來れる形勢揭焉たり云々と²⁾。

いかめしい文章ですが、アメリカの図書館では、この時期すでに“おはなし”が子どもに本の楽しさを伝え、図書館を身近なものと考えてもらうために重要なもの、と位置づけられていたことが分かります。後半部からは、子どもたちが“おはなし”を楽しむ様子も伝わってきます。『談話時間』という訳もなかなか面白いのですが、当時の日本はまだ子どもの図書館利用が制限されていた時代です。アメリカの図書館で子どもに“おはなし”をする風景をどのように読者は想像したのでしょうか。

1915(大正4)年に東京市立日比谷図書館の館頭となり、その業績が高く評価されている今澤慈海は、いち早く児童サービスに注目し普及に努めた人物としても見逃すことができません。今澤氏は1918(大正7)年に竹貫直人と、日本最初の児童サービスのテキスト、と言われる『兒童圖書館の研究』³⁾を出版しているのですが、この本でも図書館で子どもに語る事の大切さと意義、方法が書かれています。実際大正時代には、東京市立図書館の何館かでおはなし会が開かれるようになりました。先に書いた小河内芳子さんは、戦前は東京市立図書館の一つである京橋図書館に勤め、1933(昭和8)年1月に初めて図書館で子どもに“おはなし”を語ったそうです⁴⁾。

こうして日本で“おはなし”は、明治から大正時代にかけて芽を出し、徐々に広がっていきました。戦後は、日本の図書館界がアメリカの図書館学を本格的に学び、積極的に吸収する動きの中、“おはなし”もまた広く紹介され、普及するようになったのです。

3. アメリカの図書館と“おはなし”

～子どもの窓を拓く・子どもと本を結ぶ

この夏は、機会があってアメリカ、ピッツバーグのカーネギー・ライブラリー(Carnegie Library of Pittsburgh)の中央館を訪問しました。鉄鋼王アンドリュー・カーネギー(Andrew Carnegie, 1835-1919)が1890年に寄付した100万ドルで設立された歴史ある図書館です。開館して100年余りが経ちますが、現在も設立当時の建物が堂々と存在し、地域の住民に多様なサービスを展開しています。

このカーネギー・ライブラリーの分館West End Branchでは1899年に“Storytime”が始まりました。これがアメリカの図書館での最初



カーネギー・ライブラリー（中央館）のある建物の外観
（この建物には、図書館の他、博物館・美術館・音楽ホールが併設）



『The Boy Who Drew Cats』の“おはなし”を楽しむ子どもたち

のおはなしの時間だと言われています。中央館では同年に子ども室（Boys and Girls Room）が開室し、翌1900年から児童図書館員養成の講座が始まりました。この2つの出来事についても“アメリカで最初の本格的な子ども室と講座”⁵⁾と謳っています。ここで多くの児童図書館員が育ち、アメリカ各地に児童サービスを、そして“おはなし”を拡げていきました。

まさに“おはなし”のご本家とも言えるこの図書館では、今どのように“おはなし”が語られているのでしょうか。今年は“Passport to the World”を夏休みのおはなし会の共通テーマに、毎回世界各国に因んだプログラムを組んでいるそうです。私が訪問した日は“About JAPAN”！「ぜひ手伝ってね」と言われドキドキ状態の中、20人ほどの子どもたちが続々とおはなしの部屋にやってきました。鯉のぼり、から傘、日本人形など楽しいディスプレイを背に、まずは「konnichiwa!」のご挨拶を。日本について（Sushi、Honda、Shinkansenなど）、しばらくやりとりを楽しんだ後は、いよいよおはなし会の始まりです。当日はベテランの児童図書館員、Judyさんが紙芝居『ももたろう：The Peach Boy』（Kamishibaiは固有名詞です）、絵かき唄、そして『The Boy Who Drew Cats』⁶⁾を手作りの絵巻とともに語りました（厳密には“おはなし”は何も手にせず、言葉だけで物語の世界を紡ぎますが、こうしてちょっとした小道具を使うやり方もあります）。これはラフカディオ・ハーン（小泉八雲）が紹介した、どこにでも猫の絵を描いてしまう小僧さんのお話で、雪舟をモデルにしたものだそうです。この猫の落書きが原因で、お寺を追い出された小僧さん。ある晩、牛より大きな化け鼠が棲む化け物寺に泊まる羽目になり、やがて夜中になって…と、とクライマックスが近づくとつれ、子どもたちは真剣な表

情になり、固唾を吞んでじっと聴き入っていました。そして最後は、折り紙で“かぶと”を作るリラックスタイムを（しかしあちらの子どもは、おおむね折り紙が苦手ようです。端と端を合わせる、きちんと折り目をつける、ということがなかなかできず、四苦八苦していました）。おはなしの時間は、日本に一度も来たことがない子どもが日本を身近に感じ、「もっと知りたい、その本が読みたい!」という気持ちを呼び起こすきっかけをつくります。図書館の“おはなし”は、子どもの好奇心を拓く窓、子どもと本を結ぶ扉なのです。

4. “おはなし”の楽しさを！

“おはなし”の楽しさは、時代と場所をこえて存在します。この“おはなし”に耳を傾けること、声に出して語ることの楽しさを味わい、聴き手と語り手が創り出す独特な空気を体験してもらいたいと思います。ぜひ“おはなし”に挑戦を！

- 1) インタビュー：小河内芳子さんに聞く公共図書館の「お話の時間」第3回。語りの世界。1989, No.10. p.50-55.
- 2) 米國圖書館に於ける『談話時間』。図書館雑誌。1907, No.2. p.64-65
- 3) 今澤慈海、竹貫直人。児童圖書館の研究。博文館、1918、160p.
- 4) インタビュー：小河内芳子さんに聞く公共図書館の「お話の時間」第1回。語りの世界。1988, No.8. p.32-34.
- 5) Carnegie Library of PittsburghのHP：
<http://www.clpgh.org/>より。
(accessed:2009-09-20)
- 6) Lafcadio Hearn, Margaret Hodges, Aki Sogabe (ill). The Boy Who Drew Cats. Holiday House, 2002, 32 p.

図書館実習を終えて

埼玉県立浦和図書館 文学部日本語日本文学科4年 小島 聖太

埼玉県立浦和図書館での6日間の実習は、公立図書館が今後どうあるべきか考えさせてくれた、かけがえのない体験となりました。

6日間の実習では、協力業務、新聞視聴覚、社会科学資料、埼玉資料の各室の業務内容について、また資料の受け入れや装備についてそれぞれ担当の職員の方から業務内容についてお話を伺い、カウンター等での実習も行いました。

埼玉県立図書館は1922年、埼玉県教育会立埼玉図書館として浦和町(現：さいたま市)に開館したのが始まりです。その後1970～80年代に熊谷、川越、久喜図書館がそれぞれ開館し、県民の生涯学習の場を提供してきましたが、2002年に策定された「埼玉県社会教育施設再編整備計画」に基づき川越図書館を廃止し、2003年度からは浦和・熊谷・久喜の3館が分野別に資料収集・保存に当たる、分野別専門館として運用を始め現在に至っています。従来は県域を4つに分け、市町村立図書館の未設置自治体住民へのサービス提供という意味合いが強かったそうですが、市町村立図書館の充実により県立図書館には市町村立図書館にはない、より専門的な蔵書の構築と問題解決能力が求められるようになり、分野別の収集体制を敷いたとのことでした。

浦和図書館では、社会科学、産業資料と埼玉県に関する地域・行政資料を主に収集しており、所蔵資料数は約50万点と非常に多くの資料を保存しています。

今回の実習では、当然のことではありますが「司書＝決して楽な仕事ではない」ということを実感しました。一般的に司書の仕事といえば、カウンターに座り、貸出や返却などの業務をこなす仕事と考えがちで、私自身も司書課程を受講し始めた頃はそのように感じていました。しかし、実際には利用者の要望に応じ、書庫の資料を取りに行ったり、レファレンスの対応や空き時間には各種講座のパンフレットを作成したりと、職員の方々は休む間もなく一日中動いていらっしゃいました。特に浦和図書館は昭和35年に建築された若干古い建物で、増築も行っているためバックヤードは少々狭く、また書庫はあちこちに分散しているため、一つの資料を探し求めるだけでも、どこに何の資料があるのか分かっていないと一苦労です。私も3階カウンターにて来館者対応中、利用者の方の予約資料が1階にあったため下まで取りに行ったのですが、お待たせしないようにと駆け足で動いたため、3階に戻ったときには息が上がってしまいました。そして、開館前や開館時間中でも適宜、返却された資料の排架を行うのですが、棚に並べる際に、間違えて排架されている資料を直し

い位置に戻すことも併せて行い、資料が行方不明になることも防がなければなりません。間違いかどうかは、請求記号やタイトルから判断するのですが、なかなか一瞬で判断することは出来ませんでした。司書は知識や判断力、そして体力が必要だということを身をもって理解しました。

また、3階カウンター前には、その時々に関わせたテーマで県立図書館で所蔵している資料を紹介する「ミニ展示コーナー」があり、この展示内容も任せて下さいました。私は世界経済の不安定感から、しばしば話題になっている「基軸通貨」をテーマとした展示を行いました。展示内容が偏ったものとならないように、基軸通貨を変えるべきか否か・基軸通貨もドルや円、ユーロ、その他の通貨など、どの通貨が基軸通貨にふさわしいか利用者の方に考えていただけるよう様々な意見の資料を集めました。また、雑誌記事索引の使い方なども教わりながら経済誌からも資料集めを行い、30冊ほどを揃えることが出来ました。自分が展示した資料を利用者の方が興味を示し、借りて下さったときは、展示に向けて色々考えた苦勞が報われたような気がして、貸出処理をしながら心の中は感謝の気持ちで一杯になりました。こうした利用者の方の反応が、図書館員にとっての喜びの一つであり日々の業務をこなす上での活力になっているのだと感じました。

近年、金融不安による企業の倒産や高齢化社会により、自治体の税収は悪化しています。こうした中で公立図書館における資料購入費も減少傾向にあります。限られた予算の中で、どのような資料方針を定めるべきか、市町村立図書館との連携強化による相互貸借制度の拡充やビジネス支援サービスなどの新サービスの開始など、広く県民をはじめとする利用者の要望に応じていき利用者増を図っていく姿勢を直接、肌で感じ取ることが出来ました。



司書課程在学生から

科目等履修生 狩野 恵理子

「仕事をしながら学ぶということ」

民間委託の公共図書館で働くようになって半年が過ぎようとしていた時、漠然とではありましたが、図書館について勉強したいと思うようになっていました。

当時はカウンター業務のみの仕事でしたが、図書館全体の仕事の流れや、図書館で仕事をする上で必要な知識やスキルについて、学ぶ必要性を日々の仕事の中で感じるようになっていたからです。とりわけ、レファレンスにあたる時の参考調査の難しさ、奥深さに興味を持つようになっていました。

そこで、実際の業務と引き寄せながら大学で総合的に系統立てて図書館学を学ぶ方法を探し始めました。折しも、勤務している図書館は翌年からの指定管理者制度の導入を控え、大きな変化を目前にしている時期でもありました。

働きながら学ぶということ考えたとき、通信制や集中講義のタイプを選択せずに科目等履修生を選んだのは、専門の先生の講義を直接受講し、同じ目的を持った学生と席を同じくして、より多くのことをリアルタイムで吸収したいと考えたからです。1年半を経過した今、この選択は正しかったと実感しています。

科目登録にあたっては、面接時に先生から「司書課程は課題も多く、年次に従って受講するのが望ましい」という説明を受けましたが、諸事情により、必修が重なった科目とその関連科目を除く12科目を1年目に登録するという選択をしました。

講義が始まり、先生の言葉が身にしみる毎日でしたが、反面、当然のことながら複数科目にまたがる内容も多く、同時に並べた形で学ぶことによって広く眺めることができ、理解が深まりやすかったという経験もしました。各科目の

課題に向かい合うときも、単独の科目だけではなく広げて考えるようにし、参考文献には可能な限り当たるように努めています。

図書館の実務の中から生まれる疑問を講義の中で模索したり、講義の後に先生や学生同士で語り合ったりする機会は大変貴重な時間でした。講義では、図書館で日々行われていることへの意味づけがなされ、さらに講義で得た知識やスキルをすぐに図書館に持ち帰ることができるという環境は、当初の目的にかなったものです。日常の業務では扱いの少ない資料へのアクセス方法や、電子媒体、紙媒体を問わずじっくりと参考調査に取り組む機会を得たことは、現在、相互貸借を担当している上でも、大変勉強になっています。

司書課程で学んでいることは、どれもが図書館で働く上での基礎や入り口になっていると思います。特に、図書館特有のスキル（情報検索・レファレンス・資料組織など）やサービス・コミュニケーションの方法、生涯学習機関・情報館としての地域社会との関わりなどは、仕事を始める前に知識として持っていたらよかったと思えるものです。

また、図書館を利用するという立場に立ったときに、上手に図書館と向き合えるようになる手がかりを学ぶことができました。この一年、久々に母校の大学図書館を訪ねたり、特色のある図書館巡りをしたり、旅先で目にとまった図書館に立ち寄ったりと、図書館への興味は深まるばかりです。

順番は逆になってしまいましたが、図書館に仕事を得たことで生まれた「学びたい」という意欲を大切にして、資格の修得をゴールにせずこれからも学ぶことを続けていきたいと思っています。





學藝員課程



「市町村における埋蔵文化財保護行政の仕事」

新発田市教育委員会 文化財技師 本田 祐二（平成11年度文学研究科歴史学専攻修了）

1. はじめに

平成18年10月に新潟県新発田市に文化財技師として採用されて、早いもので3年が経ちました。私は専修大学大学院修士課程修了後、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所で6年半の間、臨時職員として勤務していました。新発田市に就職し、これまで過ごしてきた所とは気候や周囲の環境も大きく異なり、戸惑いながらも日々業務に励んでいます。ここでは、資格課程を受講している皆様に、当市で行われている事業を通して、市町村における埋蔵文化財保護行政の仕事についてご紹介したいと思います。

2. 仕事の概要

私が勤務しております新潟県新発田市は、人口約10万人の県北部の中核都市です。江戸時代は新発田藩の城下町として栄え、現在、新発田城周辺は市街地となり、その周辺の平野部には水田が広がっています。市内では水田稲作の生産性・効率性向上のため、圃場整備が進められており、これらの開発事業に伴う発掘調査や事業者との連絡調整、発掘調査成果の公開と活用などが私たちの主な業務です。

埋蔵文化財の仕事というと、まず発掘調査がイメージされると思います。当市でも年間の業務や予算の大半が整理・報告書作成までを含めた発掘調査に費やされ、中でも行政措置として、記録保存を目的とした緊急調査に当てられています。

開発事業者から開発の計画にあたり、計画地が周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）に該当するか照会があります。市内には平成21年5月現在で692の遺跡があり、それらは遺跡地図・台帳により管理されています。通常は遺跡地図・台帳に基づき遺跡の有無について回答し、該当する場合は事前協議という流れに

なるのですが、圃場整備など広域且つ大規模な開発事業が計画された場合には、実際に現地を歩いて、遺跡の存在を推定させる場所がないかを確認する分布調査も実施します。

遺跡に該当するところ、または分布調査によりその存在が推定される場所には、遺跡の有無や範囲と深度、内容や遺構の分布密度などを知るために、該当範囲内に試掘坑を掘って調査をする試掘・確認調査を行います。この試掘・確認調査で得られた結果に基づき、当初の計画のままでは遺跡が壊されてしまう場合は、事業計画の見直しや設計・工法の変更などで、遺跡を現状のまま保存することができないかを改めて事業者と協議します。それでも遺跡の破壊が避けられない場合に、壊される範囲に限って本発掘調査を行うこととなります。次に試掘・確認調査により得られたデータに基づいて、本発掘調査にかかる期間と費用の積算をします。新潟県の場合、降雪により適正な記録をとることができないことから、冬期間（12月～3月）は原則的に現地調査を行わないことになっており、現地調査ができる期間が限られています。事業者からの調査実施の要望件数が少なければ良いのですが、要望が複数ある場合などは各事業者と調査実施時期や実施年度の調整をしなければなりません。このほかに事業者や業者との契約、発掘調査に関連する事務等の準備作業を経てようやく本発掘調査の実施へと至ります。皆様が歴史の教科書などで目にする遺跡は、このように実施される緊急調査で発見される場合も多いです。

本発掘調査は降雪期をさけるため、主に5月から8月といった暑い時期に行います。現場に出ていますと季節の変化を直接感じるのですが、そのような面でも発掘調査は楽しいのですが、炎天下での作業は正直つらいと感じること

もあります。ともに働く作業員さんの中には私と親子ほど年の離れた方もおり、体調管理を含め、事故などがおこらないように安全に十分配慮しながら作業を進めます。発掘調査終了後はその成果をまとめるための整理作業、報告書作成へと進んでいきますが、これらの作業も含め、私たちの仕事は実に多くの方々、中でも特に作業員さんの協力がなくては成り立たない仕事だということを強く感じます。博物館などで出土品を展示する機会がある方は、それらの展示品が、製作・使用していた当時の人々だけでなく、現在の多くの人たちの働きを経て展示へと至っているのだということを覚えていてほしいと思います。

最後に発掘調査成果の活用についてですが、当市では小学校6年生の歴史の授業の初めに、市内の遺跡から出土した遺物を使って授業を行う出張授業、発掘調査の現地説明会、その年の発掘調査で出土した遺物や調査成果の概要などを公開する展示会・発掘調査報告会といった事業を主に行っています。これらの事業は、現在では多くの市町村でも行われており、史跡整備をまちづくりや地域づくりなどに活かす試みを行っている市町村が増えている中で、とくに誇れるような内容とはいえません。当市のように資料館や恒常的に展示活動などを行う施設を持たない市町村では、普

及・活用事業を展開していくのに制約があります。そのため、これまではあまり積極的に行ってこなかったのですが、今はささやかなことでも地道に続けていくことがまずは必要なのではないかと考えています。

3. おわりに

私は現在の職場に採用されるまで6年半の間、就職活動を続けました。採用試験を受けては何度も落ち、ともに採用試験を受けていた仲間が次々と就職していく中、30代を迎え、受けられる採用試験数は減少していきました。「本田は就職できないんじゃないか」といった声が、囁かれていたのではないのでしょうか。いろいろと思い悩んだ時期もありましたが、なんとか現在の職場に採用されることができました。他の人より就職できるまで時間はかかりましたが、それまでかかった時間は無駄なものとは思っていませんし、その時間があったからこそ今の自分があるのだとも思っています。学芸員も文化財行政の世界も採用人数は少なく、就職活動は厳しいと思います。就職することが全てではありませんし、その仕事に直接的に携わるだけが、その世界を支える方法ではありません。ただ、心からその職に就きたいと希望している皆様には、あきらめずにがんばってほしいと願っています。



現地説明会



発掘調査報告会

博物館実習を終えて

川崎市立日本民家園 文学部日本語日本文学科3年 石田 陽子

私は日本語日本文学科に所属しているので、日本文化について展示・研究がされている博物館で実習がしたいと思い、学校の近くの生田緑地にある川崎市立日本民家園を実習館に選びました。実習は1班4人の2班に分かれ、5月29日から7月1日までの10日間、週に2度のペースで行いました。日本民家園は、夏・秋・冬と年3回ほど実習生の受け入れを行っていて、季節によって実習内容が変わるのですが、私が実習をした夏は、年に2回行われる企画展のうちの1回を担当しました。

新しい企画展を行うにあたって、まずは前回の企画展の撤収から始まりました。実習初日には園内の民家の説明を受け、2日目からはもう資料に触らせていただくことができたので驚きました。しかし民家園の資料は意外にも重いものが多く、実際にその民家で使用されていた民具ばかりで、使い込まれてある上に古くなり壊れやすくなっていたので、最初は資料を持つ力の加減が難しくてなかなか撤収作業が進みませんでした。徐々に扱い方にも慣れ撤収が終わると、新しい企画展のために展示ケースの配置替えを行っていったのですが、展示ケースも以前民家で使用されていた1つの資料であり、キャスト等もついておらず、少し位置を移動させるのも大変で、班員全員で力を合わせて行っていました。

古民家や民具の保存のためになるべく昔の状態を優先させていることで不便さもありましたが、そこに今に通じる昔の日本文化を感じることができる、日本民家園のよさがあるのだと思いました。展示ケースをある程度決めた位置へ移動すると、展示ケースがまっすぐに見えるように何度も微調整を行い、資料の展示へと移っていきました。1つの民家でも資料がたくさんあるので、学芸員や班員とどの資料を展示するか話し合いながら決めていきました。資料の展示も来園者が見やすいよ

うに何度も何度も微調整を行い、普段何気なく見ていた資料1つをとっても、他の資料との全体のバランスやその資料の一番見やすい角度など、展示の仕方に学芸員は細かい所までとても気を使わなければならないということを実感しました。これは授業で聞いているよりも想像以上に大変な作業でした。

企画展は実質7日間かけて作っていき、展示が終わった時は達成感があり、入り口から見ていくと、資料1つ1つの展示作業風景が思い

出され、実習が終わりに近づいていくことに寂しさもありました。それだけ充実した実習ができたのだと思います。この他にも川崎市内の小学校の体験学習の補助をボランティアの方達と行ったり、同じ生田緑地にある青少年科学館や岡本太郎美術館の見学、次の企画展のための資料点検や準備、班毎に園内のワークシートの作成等を行ったりしましたが、どれも授業を受けているだけでは知ることのできない、学芸員にとって大切な事を学ぶことが出来ました。

私にとって博物館実習は、学芸員資格課程の中において最も楽しみなものであり、不安なものでしたが、日本民家園の学芸員やそれぞれの学校から集まった同じ目標を持った仲間達と実習をし、普段外部からしか見ることのできない博物館・学芸員について内部からより理解を深められ、学芸員資格を取得するにあたってのすばらしい経験をする事ができました。これからの皆さんの博物館実習も充実したものになることを願います。



博物館実習を終えて

東京都多摩動物公園 文学部人文学科3年 立川 真弓子

私は多摩動物公園で博物館実習をさせていただきました。最初は歴史関係の場所での実習を考えていたのですが、先生の薦めもあって多摩動物公園での実習と決めました。動物園には色々な係りがあり、私は教育普及係というところに配属されました。私以外に4人の4年生がいて、それぞれ生物専門の人もいれば、美術専門の人たちもいました。まったく面識のない人たちとはじめにしたことは、『多摩動物公園での実習とは』と言う事をそれぞれ考えて、思いついた単語からさらにまた連想していき樹形図のようにしていくことでした。そして最後にみんなで出し合った物を大きな紙にまとめ、発表するというものでした。はじめはみんな戸惑いながらも打ち解けて、それぞれ役割分担などをして親密度を高めることが出来ました。

はじめのうちは特にイベントなどもなく、配布物などの資料整理や動物園内をまわったり、動物園で仕事をしている方たちの様子を写真に撮ることなどでした。どこに何があるかもまだ分からない状態であったのでうまく動くことが出来ず、また緊張もあって、はじめのうちはとても一日が長く大変でした。

私たちが実習する中で最大のイベントが小学生を対象とした『サマースクール』でした。サマースクールにはそれぞれ動物コースと昆虫コースに分かれていて、さらに動物コースは3,4年生と5,6年生に分かれていました。私は実習生と2人1組となって5,6年生の担当となりました。抽選で当たった子供たちが2日間かけて飼育員による話を聞いたり担当動物の飼育体験をし、最後にみんなでまとめ、発表するというものでした。私たちは主にサマースクールの受付や子供たちが飼育員と一緒に行動しているところを写真に撮ったり、子供たちが他に興味を持ちあきたりしないよう、動物に注意を引かせたりといったものでした。正直、子供とどう接したらいいのかわからな

かったので、はじめは戸惑い離れて見ていました。また暑い中広い動物園内を歩き回るのは体力的にも大変ではありましたが、しかし子供たちから話しかけてくれたので、私も一緒にサマースクールを楽しむことが出来ました。

サマースクールで感心したことは飼育員の方たちの話し方です。子供たちにも分かるように難しい言葉を避け分かりやすく説明したり、子供たちの注意を引くような問いかけがうまいということでした。難しい言葉を使うよりも簡単な言葉で説明する方がより難しいということが分かりました。また小学生にも成長段階があり同い年だからといって、みんながみんな一緒というわけではないことが分かりました。同い年の中にも「この子には容易なこと」でも「この子には難しい」といったものもあるため、広い視野を持って接していかなければならないと感じました。

私の11日間の実習で最後に行ったのは『アニマルウォッチャーズ』というイベントでした。楽しくわいわいとした『サマースクール』とは違いアニマルウォッチャーズは「観察」に重点を置いたものであったのでした。事前に子供たちとは必要以上に関わらないようにとの注意を受けてのものだったので、とても緊張しました。イベントに応じて子供たちへの接し方、子供たちとの距離のとり方を考えさせられました。

また私たちはみんなで仕事をするのと同様進行で、個々にも仕事を与えられていました。私はアンケートを収集しパソコンに打ち込んだり、イベントのポスター作りやデータを整理して図にしたりする作業でした。ひとつの仕事に時間をかけすぎると次から次へと仕事がたまってしまい、処理をするのが大変でした。博物館実習というものでしたが、私にとって職場体験にも似た経験が出来たので大変貴重な時間を過ごせたと思います。





データ編



平成21年度 資格課程履修者数

	学 部	年 次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合計
		学 科	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
教	経 済	経 済	36	15	46	7	29	7	25	15	136	44	180
		国 際 経 済	13	—	15	—	5	—	13	—	46	—	46
	法	法 律	27	13	32	12	20	10	21	10	100	45	145
		政 治	10	—	19	—	11	—	10	—	50	—	50
	営	経 営	25	—	42	—	20	—	13	—	100	—	100
		情 報 管 理	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	商	商 業	—	—	—	—	—	—	10	2	10	2	12
		会 計	4	—	8	—	7	—	7	—	26	—	26
		マ ー ケ テ ィ ン グ	35	10	39	12	30	5	33	5	137	32	169
	文	国 文	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
英 米 文		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
人 文		65	—	48	—	49	—	42	—	204	—	204	
心 理		1	—	5	—	5	—	4	—	15	—	15	
日 本 語 日 本 文		58	—	50	—	47	—	56	—	211	—	211	
英 語 英 米 文		28	—	38	—	41	—	24	—	131	—	131	
職	ネットワーク情報	19	—	25	—	25	—	26	—	95	—	95	
	大 学 院	14	—	—	—	—	—	—	—	14	—	14	
	科 目 等 履 修 生	—	32	—	—	—	—	—	—	—	32	32	
	小 計	335	70	367	31	289	22	284	32	1,275	155	1,430	
	合 計	405		398		311		316		1,430			

	学 部	年 次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合計	
		学 科	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部		
司	経 済	経 済 学	6	8	4	3	6	6	3	7	19	24	43	
		国 際 経 済	2	—	1	—	3	—	—	—	6	—	6	
	法	法 律	3	11	5	7	7	6	2	9	17	33	50	
		政 治 学	2	—	7	—	—	—	2	—	11	—	11	
	営 業	経 営 学	2	—	2	—	1	—	1	—	6	—	6	
		情 報 管 理 学	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	商	商 業 学	—	—	—	—	—	—	2	—	2	—	2	
		会 計 学	—	—	—	—	3	—	4	—	7	—	7	
	書	文	マ ー ケ テ ィ ン グ	—	1	11	3	4	—	8	6	23	10	33
			国 文	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
英 米 文			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
人 文 学			19	—	69	—	40	—	22	—	150	—	150	
心 理 学			1	—	3	—	7	—	3	—	14	—	14	
日 本 語 日 本 文			40	—	74	—	55	—	46	—	215	—	215	
	ネットワーク情報学	英 語 英 米 文	5	—	7	—	3	—	3	—	18	—	18	
		ネットワーク情報学	6	—	7	—	6	—	6	—	25	—	25	
	大 学 院	大 学 院	3	—	—	—	—	—	—	—	3	—	3	
		履 修 生	—	10	—	—	—	—	—	—	—	10	10	
	小 計	89	30	190	13	135	12	102	22	516	77	593		
	合 計	119		203		147		124		593				

司 書 教 諭	学 部	年 次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合計
		学 科	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
	経 済	経 済 学	1	1	—	—	—	—	—	3	1	4	5
		国 際 経 済	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	法	法 律	1	—	—	1	1	—	—	2	2	3	5
		政 治 学	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	経 営	経 営 学	—	—	1	—	1	—	—	—	2	—	2
		情 報 管 理 学	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	商	商 業 学	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		会 計 学	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マ ー ケ テ ィ ン グ	マ ー ケ テ ィ ン グ	—	—	2	—	1	1	4	2	7	3	10	
	国 文	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	英 米 文	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	人 文 学	2	—	—	—	5	—	4	—	11	—	11	
	心 理 学	—	—	1	—	—	—	—	—	1	—	1	
	日 本 語 日 本 文	14	—	12	—	8	—	5	—	39	—	39	
	英 語 英 米 文	—	—	1	—	—	—	—	—	1	—	1	
	ネットワーク情報学	2	—	1	—	5	—	1	—	9	—	9	
大 学 院	3	—	—	—	—	—	—	—	3	—	3		
科 目 等 履 修 生	—	4	—	—	—	—	—	—	—	4	4		
小 計	23	5	18	1	21	1	14	7	76	14	90		
合 計	28		19		22		21		90				

	学 部	年 次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合計
		学 科	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
学 芸 員	経 済	経 済 学	2	2	1	—	3	—	4	2	10	4	14
		国 際 経 済 学	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—	1
	法	法 律 学	1	4	1	1	1	1	1	—	4	6	10
		政 治 学	1	—	1	—	—	—	1	—	3	—	3
	営 業	経 営 学	3	—	1	—	1	—	—	—	5	—	5
		情 報 管 理 学	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	商	商 業 学	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		会 計 学	—	—	—	—	2	—	—	—	2	—	2
	文	マ ー ケ テ ィ ン グ	1	1	2	—	4	—	4	1	11	2	13
		国 文 学	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
英 米 文 学		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
人 文 学		37	—	12	—	38	—	1	—	88	—	88	
心 理 学		1	—	—	—	2	—	—	—	3	—	3	
日 本 語 日 本 文 学		8	—	12	—	11	—	3	—	34	—	34	
大 学 院	英 語 英 米 文 学	5	—	1	—	1	—	—	—	7	—	7	
	ネットワーク情報学	1	—	1	—	—	—	2	—	4	—	4	
	大 学 院	4	1	—	—	—	—	—	—	4	1	5	
	科 目 等 履 修 生	—	2	—	—	—	—	—	—	—	2	2	
	小 計	64	10	32	1	63	1	17	3	176	15	191	
	合 計		74		33		64		20		191		

平成21年度 教員免許状取得状況一覧

データ編

Pana a Pana

	免 許 種 類	中 学 一 種					高 校 一 種					中 学 専 修					高 校 専 修					合 計						
		教 科		国語	英語	数学	小計	地理歴史	公民	情報	商業	国語	書道	英語	数学	小計	社会	国語	英語	小計	地理歴史		公民	商業	国語	英語	情報	小計
		申請件数	授与件数	8			8	14	8		1					23												
生田	一部	経済学科	5			5	8	6		0					14												—	19
		国際経済学科	8			8	8	11		1						20											—	28
		授与件数	8			8	7	10		1					18												—	26
		申請件数							3	7					10												—	10
		授与件数							3	5					8												—	8
		申請件数	1			1	1	1			1				3												—	4
		商業学科	0			0	0	1			1				2												—	2
		授与件数									4				4												—	4
		申請件数									3				3												—	3
		授与件数	6			6	10	12		3	10				35												—	41
		マーケティング学科	5			5	7	9		3	10				29												—	34
		授与件数	23			23	33	19							52												—	75
		人文学科	17			17	25	15							40												—	57
		授与件数	1			1		2							2												—	3
		申請件数	1			1	1	2							2												—	3
		授与件数	33			33									65												—	98
		日本語日本文学科	29			29									47												—	76
授与件数					14								22												—	36		
英語英米文学科				14									21												—	35		
授与件数				4	4			12					5	17											—	21		
申請件数				1	1			12					2	14											—	15		
授与件数																									—	0		
申請件数																									—	0		
授与件数																									—	0		
申請件数																									—	1		
授与件数																									—	1		
申請件数																									—	1		
授与件数																									—	1		
申請件数																									—	1		
授与件数																									—	1		
申請件数																									—	1		
授与件数																									—	1		
申請件数																									—	1		
授与件数																									—	1		
申請件数																									—	1		
授与件数																									—	1		
申請件数																									—	1		
授与件数																									—	1		
申請件数																									—	1		
授与件数																									—	1		
申請件数																									—	1		
授与件数																									—	1		
申請件数																									—	1		
授与件数																									—	1		
申請件数																									—	1		
授与件数																									—	1		
申請件数																									—	1		
授与件数																									—	1		
申請件数																									—	1		
授与件数																									—	1		
申請件数																									—	1		
授与件数																						</						

平成21年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
北海道・東北	北海道	北海学園札幌高等学校	情報	経営	経営	
	北海道	白樺学園高等学校	情報	経営	経営	
	北海道	北海道奥尻高等学校	数学	ネットワーク	ネットワーク	
	青森県	青森県立青森北高等学校 今別校舎	商業	経営	経営	
	青森県	八戸工業大学第二高等学校	地理歴史(日本)	文	人文	歴史学
	青森県	青森県立八戸高等学校	公民	文	心理	
	岩手県	専修大学北上高等学校	商業	経済	経済	
	岩手県	専修大学北上高等学校	国語	文	日本語・文	日本語学
	岩手県	専修大学北上高等学校	英語	文	英語・英米文	
	秋田県	北秋田市立合川高等学校	公民	経済	経済	
	秋田県	秋田県立秋田南高等学校	情報	経営	経営	
	秋田県	秋田県立横手高等学校	地理歴史(日本)	商	マーケティング	
	秋田県	秋田県立秋田南高等学校	地理歴史(日本)	文	人文	歴史学
	秋田県	聖雲女子短期大学付属高等学校	公民	文	心理	
	宮城県	宮城県泉高等学校	国語	文	日本語・文	日本語学
	宮城県	仙台育英学園高等学校	英語	文学研究科		英語・英米文
	山形県	日本大学山形高等学校	地理歴史	経済	経済	
	山形県	羽黒学園羽黒高等学校	地理歴史	文	人文	社会学
	山形県	山形県立長井高等学校	地理歴史	文学研究科		歴史学
	福島県	西郷村立西郷第一中学校	社会	経済	経済	
関東	福島県	郡山市立行健中学校	国語	文	日本語・文	日本語学
	福島県	須賀川市立第一中学校	国語	文	日本語・文	日本語学
	福島県	田村市立船引南中学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	茨城県	茨城県立藤代高等学校	情報	経営	経営	
	茨城県	茨城県立水戸商業高等学校	商業(簿記)	商	会計	
	茨城県	茨城県立下妻第一高等学校	地理歴史(日本)	商	マーケティング	
	茨城県	茨城県立並木高等学校	公民	商	マーケティング	
	茨城県	日立市立日高中学校	社会	文	人文	歴史学
	茨城県	茨城中学校・茨城高等学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	茨城県	茨城県立水海道第一高等学校	国語	文	日本語・文	日本語学
	茨城県	筑西市立下館南中学校	国語	文	日本語・文	日本語学
	茨城県	神栖市立神栖第二中学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	茨城県	茨城県立取手第一高等学校	数学	ネットワーク	ネットワーク	
	栃木県	足利市立西中学校	社会	経済	国際経済	
	栃木県	栃木県立宇都宮商業高等学校	商業	商	マーケティング	
	栃木県	足利市立北中学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	群馬県	群馬県立前橋商業高等学校	商業	経営	経営	
	群馬県	太田市立商業高等学校	商業	商	マーケティング	
	群馬県	群馬県立館林商工高等学校	商業	商	マーケティング	
	群馬県	群馬県立沼田高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	群馬県	下仁田町立下仁田中学校	国語	文	日本語・文	日本語学

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
関東	群馬県	高崎市立榛名中学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	埼玉県	埼玉県立春日部高等学校	地理歴史(日本)	経済	経済	
	埼玉県	さいたま市立浦和高等学校	倫理	経済	国際経済	
	埼玉県	埼玉県立秩父高等学校	公民(現代社会)	経済	国際経済	
	埼玉県	埼玉県立豊岡高等学校	地理歴史・公民	商	マーケティング	
	埼玉県	大宮開成中学・高等学校	世界史	文	人文	歴史学
	埼玉県	埼玉県立大宮光陵高等学校	地理歴史	文	人文	社会学
	埼玉県	埼玉県立松山高等学校	地理歴史(日本)	文	人文	社会学
	埼玉県	埼玉県立浦和高等学校	公民	文	心理	
	埼玉県	狭山ヶ丘高等学校	国語	文	日本語・文	日本語学
	埼玉県	北本市立北本中学校	国語	文	日本語・文	日本語学
	埼玉県	佐藤栄学園埼玉栄高等学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	埼玉県	皆野町立皆野中学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	埼玉県	埼玉県立所沢高等学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	埼玉県	埼玉県立所沢高等学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	埼玉県	深谷市立藤沢中学校	英語	文	英語・英米文	
	埼玉県	浦和学院高等学校	英語	文	英語・英米文	
	埼玉県	埼玉県立越谷南高等学校	情報	ネットワーク	ネットワーク	
	千葉県	専修大学松戸高等学校	公民	経済	経済	
	千葉県	銚子市立銚子高等学校	公民	文	人文	哲学生人文学
	千葉県	我孫子市立久寺家中学校	社会	文	人文	歴史学
東京都	千葉県	八千代松陰高等学校	国語	文	日本語・文	日本語学
	千葉県	千葉県立成東高等学校	国語	文	日本語・文	日本語学
	千葉県	専修大学松戸高等学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	千葉県	市川中学校・市川高等学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	千葉県	千葉県立船橋東高等学校	情報	ネットワーク	ネットワーク	
	千葉県	千葉県立船橋旭高等学校	英語	文学研究科		英語・英米文
	東京都	東京都立豊島高等学校	地理歴史	経済	経済	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	経済	国際経済	
	東京都	村田女子高等学校	商業(簿記)	商	会計	
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	商	マーケティング	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	商	マーケティング	
	東京都	東京都立神代高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	東京都	立正中学校・高等学校	社会・地理歴史	文	人文	歴史学
	東京都	東京都立南多摩高等学校	世界史	文	人文	歴史学
	東京都	足立学園高等学校	地理歴史(日本)	文	人文	歴史学
	東京都	多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校	地理歴史(日本)	文	人文	歴史学
	東京都	八王子市立第一中学校	社会	文	人文	歴史学
	東京都	東京都立府中高等学校	地理歴史	文	人文	環境地理学
	東京都	東京都立山崎高等学校	地理歴史(世界)	文	人文	社会学

平成21年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
関	東京都	東京都立南平高等学校	日本史	文	人文	社会学
	東京都	品川区立富士見台中学校	社会	文	人文	社会学
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	文	人文	社会学
	東京都	早稲田高等学校	公民	文	心理	
	東京都	東京都立町田高等学校	国語	文	日本語・日本文学	日本語学
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	日本語・日本文学	日本語学
	東京都	淑徳中学高等学校	国語	文	日本語・日本文学	日本文学文化
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	日本語・日本文学	日本文学文化
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	日本語・日本文学	日本文学文化
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	日本語・日本文学	日本文学文化
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	日本語・日本文学	日本文学文化
	東京都	青梅市立西中学校	国語	文	日本語・日本文学	日本文学文化
	東京都	東京都立小松川高等学校	国語	文	日本語・日本文学	日本文学文化
	東京都	東京純心女子中学高等学校	英語	文	英語・英米文	
	東京都	多摩大学目黒中学・高等学校	英語	文	英語・英米文	
	東京都	江戸川区立小岩第四中学校	英語	文	英語・英米文	
	東京都	東京都立小金井北高等学校	英語	文	英語・英米文	
	東京都	東京都立大泉高等学校	英語	文	英語・英米文	
	東京都	明星中学高等学校	英語	文	英語・英米文	
	東京都	足立区立第十一中学校	英語	文	英語・英米文	
東	東京都	桜美林中学校	英語	文	英語・英米文	
	東京都	東京都立柏江高等学校	英語	文	英語・英米文	
	東京都	専修大学附属高等学校	情報	ネットワーク	ネットワーク	
	東京都	東京都立大島高等学校	情報	ネットワーク	ネットワーク	
	東京都	芝浦工業大学高等学校	情報	ネットワーク	ネットワーク	
	東京都	大田区立大森第一中学校	数学	ネットワーク	ネットワーク	
	東京都	東京都立神代高等学校	地理歴史	文学研究科		歴史学
	神奈川県	神奈川県立麻溝台高等学校	経済	経済		
	神奈川県	神奈川県立希望ヶ丘高等学校	経済	経済		
	神奈川県	川崎市立南菅中学校	社会	経済	経済	
	神奈川県	川崎市立柿生中学校	社会	経済	経済	
	神奈川県	相模原市立共和中学校	社会	経済	経済	
	神奈川県	神奈川県立座間総合高等学校	公民	経済	国際経済	
	神奈川県	相模原市立旭中学校	社会	経済	国際経済	
	神奈川県	神奈川県立茅ヶ崎西浜高等学校	公民	経済	国際経済	
	神奈川県	相模原市立鶴野森中学校	社会	経済	国際経済	
	神奈川県	神奈川県立市ヶ尾高等学校	公民	経済	国際経済	
	神奈川県	神奈川県立旭高等学校	情報	経営	経営	
	神奈川県	神奈川県立荏田高等学校	地理歴史	商	マーケティング	
	神奈川県	関東学院中学校高等学校	社会	商	マーケティング	

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
関	神奈川県	相模原市立相武台中学校	社会	文	人文	歴史学
	神奈川県	神奈川県立有馬高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	神奈川県	神奈川県立大原高等学校	地理歴史	文	人文	社会学
	神奈川県	大井町立湘光中学校	国語	文	日本語・日本文学	日本語学
	神奈川県	川崎市立大師中学校	国語	文	日本語・日本文学	日本語学
	神奈川県	神奈川県立大和高等学校	国語	文	日本語・日本文学	日本語学
	神奈川県	神奈川県立座間総合高等学校	国語	文	日本語・日本文学	日本語学
	神奈川県	藤沢市立羽鳥中学校	国語	文	日本語・日本文学	日本語学
	神奈川県	向上高等学校	国語・書道	文	日本語・日本文学	日本文学文化
	神奈川県	神奈川県立七里が浜高等学校	国語	文	日本語・日本文学	日本文学文化
	神奈川県	平塚市立大住中学校	国語	文	日本語・日本文学	日本文学文化
	神奈川県	神奈川県立生田高等学校	国語	文	日本語・日本文学	日本文学文化
	神奈川県	川崎市立長沢中学校	国語	文	日本語・日本文学	日本文学文化
	神奈川県	神奈川県立橋本高等学校	英語	文	英語・英米文	
	神奈川県	相模原市立相原小学校	全科	文	英語・英米文	
	神奈川県	松田町立松田中学校	英語	文	英語・英米文	
	神奈川県	横浜市立さつきが丘小学校	全科	文	英語・英米文	
	神奈川県	相洋高等学校	英語	文	英語・英米文	
	神奈川県	神奈川県立鎌倉高等学校	英語	文	英語・英米文	
	神奈川県	神奈川県立港北高等学校	情報	ネットワーク	ネットワーク	
	神奈川県	神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校	情報	ネットワーク	ネットワーク	
	神奈川県	神奈川県立平塚江南高等学校	情報	ネットワーク	ネットワーク	
東	新潟県	新潟県立新発田商業高等学校	商業	商	マーケティング	
	新潟県	新潟県立十日町高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	新潟県	新潟県立長岡高等学校	地理歴史・公民	文	人文	歴史学
	新潟県	新潟第一高等学校	国語	文	日本語・日本文学	日本語学
	新潟県	新潟市立高志高等学校	国語	文	日本語・日本文学	日本語学
	新潟県	新潟県立新潟南高等学校	英語	文	英語・英米文	
	山梨県	山梨県立都留高等学校	英語	文	英語・英米文	
	山梨県	大月市立猿橋中学校	英語	文	英語・英米文	
	長野県	長野県飯山北高等学校	地理歴史	商	マーケティング	
	長野県	松本第一高等学校	地理歴史	商	マーケティング	
	長野県	松商学園高等学校	商業	商	マーケティング	
	長野県	長野県茅野高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	長野県	長野県松本緑ヶ丘高等学校	地理歴史・公民	文	人文	社会学
	長野県	長野県屋代高等学校	英語	文	英語・英米文	
北陸	石川県	星稜高等学校	公民	商	マーケティング	
	石川県	石川県立金沢中央高等学校	地理歴史・公民	文	人文	環境地理学
	岐阜県	岐阜県立岐阜商業高等学校	商業	商	会計	
	岐阜県	岐阜県立飛騨神岡高等学校	英語	文	英語・英米文	
	岐阜県	岐阜県立岐阜商業高等学校	情報	ネットワーク	ネットワーク	

平成21年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
東海	岐阜県	岐阜県立中津商業高等学校	商業	商	マーケティング	
	静岡県	静岡市立清水両河内中学校	社会	商	マーケティング	
	静岡県	加藤学園暁秀高等学校	日本史	経済	国際経済	
	静岡県	静岡県立御殿場南高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	静岡県	掛川市立北中学校	社会	文	人文	歴史学
	静岡県	浜松日体高等学校	地理歴史(日本史)	文	人文	歴史学
	静岡県	富士市立富士南中学校	社会	文	人文	社会学
	静岡県	静岡県立三島北高等学校	国語	文	日本語日文	日本文学文化
	静岡県	静岡県立吉原高等学校	国語	文	日本語日文	日本文学文化
	愛知県	名古屋市立北高等学校	地理歴史	経済	国際経済	
	三重県	いなべ市立員弁中学校	社会	商	マーケティング	
近畿	奈良県	奈良県立添上高等学校	国語	文	日本語日文	日本語学
	兵庫県	神戸市立井吹台中学校	国語	文	日本語日文	日本文学文化
	兵庫県	神戸龍谷高等学校	英語	文	英語英米文	
中国	鳥取県	岩美町立岩美中学校	社会	経済	国際経済	
	鳥取県	米子北高等学校	国語	文	日本語日文	日本文学文化

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
四国	香川県	香川県立高松西高等学校	地理歴史	商	マーケティング	
	愛媛県	愛媛県立宇和島東高等学校	商業	商	マーケティング	
九州・沖縄	福岡県	久留米学園高等学校	商業	経営	経営	
	福岡県	福岡県立三井高等学校	地理歴史	商	マーケティング	
	大分県	豊後高田市立真玉中学校	国語	文学研究科		日本語日本文学
	佐賀県	佐賀県立佐賀工業高等学校	地理歴史	商	マーケティング	
	熊本県	専修大学玉名高等学校	地理歴史	経済	経済	
	熊本県	氷川町及び八代市中学校組合立氷川中学校	社会	経済	経済	
	熊本県	専修大学玉名高等学校	国語	文	日本語日文	日本文学文化
	長崎県	長崎県立島原高等学校	国語	文	日本語日文	日本文学文化
	宮崎県	鵬翔高等学校	地理歴史	商	マーケティング	
	鹿児島県	鹿児島県立鹿児島南高等学校	商業	経営	経営	
	鹿児島県	鹿児島実業高等学校	商業	商	会計	
	鹿児島県	鹿児島高等学校	商業	商	マーケティング	
	沖縄県	名護市立大宮中学校	国語	文	日本語日文	日本語学
	沖縄県	沖縄県立那覇高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	沖縄県	沖縄県立普天間高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	

平成21年度 教育実習先一覧（神田）

	所在地	実習館名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
東北 関 東	福島県	尚志高等学校	地理歴史	法	法律
	栃木県	宇都宮市立姿川中学校	社 会	法	法律
	埼玉県	埼玉県立不動岡高等学校	日 本 史	法	法律
	埼玉県	春日部共栄高等学校	公 民	法	法律
	千葉県	千葉県立津田沼高等学校	政治経済	法	政治
	千葉県	千葉県立千葉女子高等学校	社 会	法	政治
	千葉県	日出学園中学校・高等学校	現代社会	法	法律
	千葉県	千葉敬愛高等学校	現代社会	法	政治
	千葉県	専修大学松戸高等学校	地理歴史	法	政治
	東京都	町田市立成瀬台中学校	社 会	法	法律
	東京都	東京都立東大和南高等学校	世 界 史	法	法律
	東京都	東京都国分寺高等学校	現代社会	法	政治
	東京都	帝京八王子高等学校	公 民	法	法律
	東京都	東亜学園高等学校	社 会	法	法律

	所在地	実習館名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関 東	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	公 民	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	公 民	法	政治
	東京都	専修大学附属高等学校	公 民	法	政治
	神奈川県	小田原市立泉中学校	社 会	法	法律
	神奈川県	秦野市立本町中学校	社 会	法	政治
	神奈川県	南足柄市立南足柄中学校	社 会	法	政治
	神奈川県	神奈川県立有馬高等学校	政治経済	法	法律
	神奈川県	神奈川県立座間高等学校	現代社会	法	法律
	新潟県	佐渡市立東中学校	社 会	法	法律
甲信越 東海 九州・沖縄	愛知県	岩倉市立岩倉中学校	社 会	法	法律
	福岡県	東筑紫学園高等学校	現代社会	法	法律
	沖縄県	興南学園興南高等学校	公 民	法	法律

平成21年度 教育実習先一覧（二部）

	所在地	実習館名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
北海道・東北 関 東	岩手県	専修大学北上高等学校	公 民	科目等履修生	
	山形県	酒田南高等学校	公 民	経済	経済
	栃木県	栃木県立さくら清修高等学校	公 民	経済	経済
	埼玉県	桶川市立桶川東中学校	社 会	経済	経済
	埼玉県	朝霞市立朝霞第五中学校	社 会	経済	経済
	埼玉県	埼玉県立越谷南高等学校	公 民	経済	経済
	埼玉県	埼玉県立狭山経済高等学校	商 業	経済	経済
	千葉県	習志野市立習志野高等学校	公 民	科目等履修生	
	東京都	駿台学園高等学校	公 民	法	法律
	東京都	東京都立第四商業高等学校	商 業	商	商業
	東京都	東京都立第三商業高等学校	商 業	商	マーケティング
	東京都	東京都立江東商業高等学校	商 業	商	マーケティング

	所在地	実習館名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関 東	東京都	淑徳高等学校	公民(現代社会)	科目等履修生	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史(日本史)	科目等履修生	
	神奈川県	神奈川県立大和西高等学校	地理歴史(世界史)	商	マーケティング
	神奈川県	神奈川県立小田原高等学校	地理歴史(世界史)	科目等履修生	
	神奈川県	秦野市立本町中学校	社 会	科目等履修生	
甲信越 近畿 九州・沖縄	山梨県	中央市立田富中学校	社 会	経済	経済
	大阪府	大阪市立鯉江中学校	社 会	法	法律
	和歌山県	紀の川市立那賀中学校	公 民	商	マーケティング
	福岡県	福岡県立三井高等学校	公 民	科目等履修生	
九州・沖縄	宮崎県	宮崎県立宮崎北高等学校	地理歴史(世界史)	法	法律
	沖縄県	沖縄県立那覇高等学校	公 民	経済	経済
	沖縄県	名護市立東江中学校	社 会	法	法律

平成21年度 図書館実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	埼玉県	さいたま市立中央図書館	文	日本語日本文	日本語学
	埼玉県	埼玉県立浦和図書館	文	日本語日本文	日本文学文化
	東京都	専修大学図書館	文	日本語日本文	日本文学文化
	東京都	専修大学図書館	文	英語英米文	
	東京都	専修大学図書館	ネットワーク職	ネットワーク職	
	東京都	専修大学図書館	ネットワーク職	ネットワーク職	

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東 甲信越 九州	神奈川県	厚木市立中央図書館	文	日本語日本文	日本語学
	神奈川県	厚木市立中央図書館	文	日本語日本文	日本文学文化
	神奈川県	横浜市中区図書館	文	日本語日本文	日本文学文化
	長野県	市立須坂図書館	商	会計	
	長崎県	島原図書館	文	日本語日本文	日本文学文化

平成21年度 博物館（館務）実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
北海道・東北	北海道	アイヌ民族博物館	文	人文	歴史学
	青森県	青森県立郷土館	文	人文	環境地理学
	青森県	八戸市博物館	文	日本語日本文	日本文学文化
	岩手県	北上市立博物館	文	人文	環境地理学
	山形県	致道博物館	文	人文	哲学生人学
	山形県	米沢市上杉博物館	文	人文	歴史学
関東	福島県	福島県立博物館	文	日本語日本文	日本文学文化
	栃木県	黒羽芭蕉の館	文	人文	哲学生人学
	栃木県	栃木県立しもつけ風土記の丘資料館	文	人文	歴史学
	栃木県	佐野市立吉澤記念美術館	文	日本語日本文	日本文学文化
	茨城県	古河歴史博物館	文	人文	哲学生人学
	茨城県	水戸市立博物館	文	人文	歴史学
	茨城県	ミュージアムパーク茨城県自然博物館	文学研究科		日本語日本文
	群馬県	高崎市美術館	文	人文	哲学生人学
	群馬県	群馬県立日本絹の里	文	人文	歴史学
	千葉県	千葉県立中央博物館	法	政治	
	千葉県	茂原市立美術館・郷土資料館	文	人文	歴史学
	東京都	横山大観記念館	商	会計	
	東京都	府中市郷土の森博物館	文	人文	歴史学
	東京都	江戸川区自然動物園	文	人文	哲学生人学
	東京都	明治大学博物館	文	人文	歴史学
	東京都	八王子市郷土資料館	文	人文	歴史学
	東京都	明治大学博物館	文	人文	歴史学
	東京都	東京都井の頭自然文化園	文	人文	歴史学
	東京都	東京都多摩動物公園	文	人文	歴史学
	東京都	日本民藝館	文	人文	歴史学
	東京都	日本郵政（株）郵政資料館（通信総合博物館）	文	心理	
	東京都	板橋区立熱帯環境植物館	文	心理	
	東京都	紙の博物館	文	日本語日本文	日本語学

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	東京都	目黒寄生虫館	文	日本語日本文	日本語学
	東京都	科学技術館	文	日本語日本文	日本語学
	東京都	民音音楽博物館	文	日本語日本文	日本文学文化
	東京都	弥生美術館	文	日本語日本文	日本文学文化
	東京都	東京国立近代美術館フィルムセンター	文	英語英米文	
	神奈川県	大和市つる舞の里歴史資料館	文	人文	哲学生人学
	神奈川県	シルク博物館	文	人文	哲学生人学
	神奈川県	横浜開港資料館	文	人文	歴史学
	神奈川県	神奈川県立歴史博物館	文	人文	歴史学
	神奈川県	川崎市市民ミュージアム	文	人文	歴史学
	神奈川県	伊勢原市子ども科学館	文	人文	歴史学
	神奈川県	神奈川県立フラワーセンター大船植物園	文	人文	環境地理学
	神奈川県	川崎市青少年科学館	文	人文	環境地理学
	神奈川県	川崎市立日本民家園	文	日本語日本文	日本語学
甲信越	神奈川県	神奈川県立神奈川近代文学館	文	日本語日本文	日本文学文化
	神奈川県	横浜こども科学館	ネットワーク職	ネットワーク職	
	新潟県	新潟市歴史博物館	文	人文	環境地理学
	長野県	茅野市ハッポ総合博物館	文	日本語日本文	日本文学文化
	山梨県	北杜市オオムラサキセンター	法	法律	
	山梨県	遊亀公園附属動物園	経営	経営	
	山梨県	山梨県立博物館	文	人文	歴史学
	静岡県	佐野美術館	文	人文	歴史学
	静岡県	藤枝市郷土博物館・文学館	文	人文	歴史学
	愛知県	名古屋市博物館	文	人文	歴史学
東海	三重県	四日市市立博物館	文学研究科		日本語日本文
	近畿	京都府	雲山歴史館	商	マーケティング
	中国	岡山県	川崎医科大学現代医学教育博物館	法	法律
	九州	大分県	大分県立歴史博物館	経営	経営
	熊本県	玉名市立歴史博物館ころもピア	経済学研究科		経済学

主な教員就職先一覧

就職 年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成 17 年 度	平13 経済・経済	川崎市立福田小学校	専 任	小 学 校
	平15 経済・経済	専修大学附属高等学校	専 任	英 語
	平17 経済・国際経済	銚子市立銚子第五中学校	常 勤	社会・理科
	平14 法 ・ 法律	八街市内中学校	専 任	社 会
	平16 法 ・ 法律	千葉県印旛村立いには野小学校	専 任	小 学 校
	平17 法 ・ 法律	船橋市立七林小学校	常 勤	全 科
	平17 法 ・ 法律	学校法人駿河学院（藤枝学院実務高等専修学校）	専 任	
	平16 経営・経営	神奈川県立生田東高等学校 東京都立新宿山吹高等学校 学校法人成城学園（成城学園高等学校）	非 常 勤	情 報
	平16 経営・経営	専修大学附属高等学校 学校法人駒場学園（駒場学園高等学校）	非 常 勤	情 報
	平16 経営・経営	学校法人立教大学（立教新座中学・高等学校） 学校法人慶應義塾（慶應義塾高等学校） 東京都立新宿山吹高等学校	非 常 勤	情 報
	平16 経営・経営	東京都立新宿山吹高等学校	非 常 勤	情 報
	平17 経営・経営	東京都立新宿山吹高等学校	非 常 勤	情 報
	平17 経営・経営	岩手県立福岡高等学校	常 勤	情報・商業
	平17 経営・経営	学校法人佐藤栄学園（栄東中学・高等学校）	専 任	情 報
	平17 経営・経営	埼玉県立所沢西高等学校 埼玉県立秩父高等学校 埼玉県立小鹿野高等学校	非 常 勤	情 報
	平15 商 ・ 商業	日本放送協会学園高等学校	常 勤	商 業
	平12 文 ・ 人文	東京都内小学校	専 任	全 科
	平13 文 ・ 英米文	加賀市立片山津中学校	専 任	英 語
	平15 文 ・ 英米文	川崎市立有馬中学校	専 任	英 語
	平16 文 ・ 国文	学校法人福田学園（東和大学付属昌平高等学校）	非 常 勤	国 語
	平16 文 ・ 国文	鴨川市立江見中学校	常 勤	国 語
	平16 文 ・ 英米文	結城市立結城中学校	専 任	英 語
	平16 文 ・ 人文	横浜市立青葉台中学校	臨 任	社 会
	平17 文 ・ 人文	学校法人市邨学園（名古屋経済大学高蔵高等学校）	非 常 勤	地 理 歴 史
	平17 文 ・ 人文	厚木市立林中学校	臨時の任用職員	社 会
	平17 文 ・ 日本語・日本文	学校法人佐藤栄学園（埼玉栄高等学校）	常 勤	国 語
	平17 文 ・ 英語・英米文	学校法人柏専学院（新潟産業大学附属高等学校）	非 常 勤	英 語
	平17 文 ・ 英語・英米文	学校法人松韻学園（福島高等学校）	常 勤	英 語
	平17 文 ・ 英語・英米文	東京都立足立東高等学校	専 任	英 語
	平17 初等・情報・初等・情報	学校法人開成学園（大宮開成高等学校）	非 常 勤	情 報
	平17 商 ・ 商業	学校法人松韻学園（松栄高等学校）	常 勤	公民・商業
	平17 院商・修士	東京都立新宿山吹高等学校	専 任	商業・情報
	平16 院文・修士	拓殖大学第一高等学校	非 常 勤	地 理 歴 史
	平16 院文・修士	新潟県立巻高等学校	専 任	英 語
	平16 履修生	東京都立国立高等学校 東京都立美原高等学校 東京都立新宿山吹高等学校 日本放送協会学園高等学校	非 常 勤	情 報
平成 18 年 度	平15 経済・経済	秦野市立堀川小学校	専 任	全 科
	平17 経済・経済	藤沢市立第一中学校	期 限 付	社 会
	平17 経済・国際経済	銚子市立西中学校	専 任	社 会
	平 9 法 ・ 法律	千代田区立麹町小学校	専 任	全 科
	平11 法 ・ 法律	学校法人渋谷教育学園（渋谷教育学園幕張高等学校）	非 常 勤	社会・公民
	平14 法 ・ 法律	小学校（川崎市）	専 任	全 科
	平14 法 ・ 法律	三田市立藍中学校	専 任	社 会
	平16 法 ・ 法律	足立区立千住本町小学校	専 任	全 科
	平17 法 ・ 法律	葛飾区立綾南小学校	専 任	全 科
	平16 経営・経営	専修大学付属高等学校	専 任	情 報
	平17 経営・経営	東京都立新宿山吹高等学校	非 常 勤	情 報
	平17 経営・経営	東京都立新宿山吹高等学校	非 常 勤	情 報
	平18 経営・経営	学校法人加計学園（岡山理科大学附属高等学校）	非 常 勤	情 報
	平15 商 ・ 商業	甲斐市立玉幡小学校	専 任	全 科
	平17 商 ・ 商業	香川県立中部養護学校高等部	期 限 付	特殊（養護）
	平17 商 ・ 商業	YMCA高等学院	非 常 勤	商 業

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成18年度	平18 商 ・ 商業	浦安市立美浜中学校	非 常 勤	社 会
	平18 商 ・ 商業	学校法人日本放送学園（NHK学園）	非 常 勤	商 業
	平14 文 ・ 英米文	川崎市立御幸中学校	専 任	英 語
	平14 文 ・ 英米文	多摩市立東愛宕中学校	専 任	英 語
	平18 文 ・ 英語英米文	学校法人秀明学園（秀明英光高等学校）	非 常 勤	英 語
	平18 文 ・ 英語英米文	渋谷区立中学校	非 常 勤	英 語
	平18 文 ・ 英語英米文	平田村立小平中学校	常 勤	英 語
	平14 文 ・ 人文	四街道市立中央小学校	専 任	全 科
	平14 文 ・ 人文	八王子市立山田小学校	専 任	全 科
	平17 文 ・ 人文	学校法人日本橋女学館（日本橋女学館中学校・高等学校）	非 常 勤	社会・地理歴史
	平17 文 ・ 人文	学校法人誠恵学院（誠恵高等学校）	常 勤	地 理 歴 史
	平18 ネットワーク情報・ネットワーク情報	埼玉県立所沢西高等学校 埼玉県立庄和高等学校	非 常 勤	情 報
	平15 院文 ・ 修士	渋谷区立常盤松小学校	専 任	全 科
	平16 院文 ・ 修士	東京都立町田養護学校	専 任	
平成19年度	平18 院文 ・ 修士	専修大学附属高等学校	非 常 勤	英 語
	平18 経済・経済	大田区立粕谷中学校	常 勤	社 会
	平19 経済・経済	常総市立中学校	常 勤	社 会
	平19 経済・経済	学校法人昭 and 第一学園（昭 and 第一学園高等学校）	常 勤	公 民
	平19 経済・経済	学校法人国士館（国士館中学・高等学校 全日制）	非 常 勤	社 会
	平 3 法・法律	さいたま市立安行小学校	専 任	全 科
	平11 法・法律	学校法人渋谷教育学園（渋谷教育学園幕張中学校・高等学校）	常 勤	公 民
	平16 法・法律	東京都立足立養護学校	専 任	数 学
	平17 法・法律	葛飾区立東水元小学校	専 任	全 科
	平18 法・法律	笛吹市立春日居中学校	専 任	社 会
	平19 法・法律	学校法人堀越学園（堀越高等学校）	非 常 勤	地歴（世界史）
	平19 法・法律	学校法人箕面自由学園（箕面自由学園）	非 常 勤	
	平19 法・法律	栃木県教育委員会（高校社会）	非 常 勤	
	平17 経営・経営	横浜市立奈良小学校	専 任	全 科
	平19 経営・経営	学校法人青森山田学園（青森山田高等学校）	専 任	商 業
	平16 商・商業	鳩ヶ谷市立里中学校	常 勤	社 会
	平18 商・商業	川崎市立真福寺小学校	専 任	全 科
	平19 商・商業	伊勢原市立中沢中学校	臨時的任用	社 会
	平19 商・商業	静岡県立磐田南高等学校	非 常 勤	商 業
	平11 文・人文	神奈川県立三崎水産高等学校	非 常 勤	地 歴
	平16 文・人文	千葉県教育委員会	専 任	中・高社会
	平16 文・人文	学校法人日本橋女学館（日本橋女学館中学高等学校）	非 常 勤	中 学 社 会
	平16 文・人文	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	非 常 勤	地 歴
	平16 文・人文	浜松市立泉小学校	常 勤	全 科
	平17 文・人文	広島県立西条農業高等学校	非 常 勤	地 歴
	平19 文・人文	群馬県立前橋女子高等学校	非 常 勤	国 語
	平16 文・国文	立川市立立川第七中学校	専 任	国 語
	平19 文・日本語日本文	大田原市立大田原小学校	非 常 勤	全 科
	平19 文・日本語日本文	浜松市立入野中学校	非 常 勤	国 語
	平19 文・日本語日本文	学校法人大乘淑徳学園（淑徳巣鴨中学高等学校）	常 勤	国 語
	平19 文・日本語日本文	水戸市立見川中学校	非 常 勤	国 語
	平19 文・日本語日本文	学校法人東京農業大学（東京農業大学第一高等学校） （東京農業大学第一高等学校中学部）	非 常 勤	国 語
	平17 文・英語英米文	学校法人日田佐藤学園（藤蔭高等学校）	専 任	英 語
	平19 文・英語英米文	学校法人大森学園（大森学園高等学校）	非 常 勤	英 語
	平19 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人日通学園（流通経済大学付属柏高等学校）	非 常 勤	情 報
	平19 院経営・修士	東京都立新宿山吹高等学校 東京都立大泉高等学校 神奈川県立ひばりが丘高等学校	非 常 勤	情 報
	平16 院文・博士	相模原市立相模台小学校	非 常 勤	全 科
	平19 院文・修士	学校法人東京家政学院（東京家政学院中学校・高等学校）	非 常 勤	英 語
	平19 院文・修士	東京都立小川高等学校	非 常 勤	地 歴
平成20年度	平13 経済・経済	茨城県教育委員会（中学校）	専 任	社 会
	平13 経済・経済	川崎市教育委員会（中学校）	専 任	社 会
	平20 経済・経済	埼玉県立和光国際高等学校	期 限 付	情 報
	平18 経済・国際経済	相模原市立大沢中学校	非 常 勤	社 会
	平18 経済・国際経済	名古屋市教育委員会（小学校）	非 常 勤	全 科

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就職先	職名	教科
平成20年度	平13 法・法律	足立区教育委員会（小学校）	専任	全科
	平18 法・法律	豊科町立豊科北中学校	非常勤	社会
	平19 法・法律	国分寺市立第7小学校	専任	全科
	平19 法・法律	東京都教育委員会（小学校）	期限付	全科
	平20 法・法律	富山県立富山商業高等学校	非常勤	公民
	平17 経営・経営	埼玉県立小鹿野高等学校	専任	情報
	平20 経営・経営	学校法人美作学園（岡山県作陽高等学校）	非常勤	情報
	平20 経営・経営	学校法人常総学院（常総学院高等学校）	常勤	情報
	平20 商・商業	倉敷市立真備陵南高等学校	常勤	情報・商業
	平18 商・商業	学校法人日本橋女学館（日本橋女学館中学高等学校）	非常勤	公民
	平20 商・会計	学校法人鎌形学園（東京学館船橋高等学校）	非常勤	商業
	平10 文・人文	東京都教育委員会（中学・高校）	専任	社会
	平17 文・人文	専修大学附属高等学校	専任	地理歴史
	平18 文・人文	学校法人大妻学院（大妻女子大学附属中・高等学校）	専任	地理歴史
	平20 文・人文	市原市立八幡小学校	非常勤	小学校
	平17 文・日本語日本文	守山市立小津小学校	専任	全科
	平20 文・日本語日本文	八戸市立下長中学校	常勤	中学校
	平20 文・日本語日本文	広島市立中広中学校	非常勤	国語
	平18 文・英語英米文	東京都教育委員会（小学校）	専任	全科
	平18 文・英語英米文	新発田市立第一中学校	専任	英語
	平18 文・英語英米文	山武市立蓮沼中学校	専任	英語
	平18 文・英語英米文	東京都立練馬工業高等学校	専任	英語
	平20 文・英語英米文	豊橋市立東陽中学校	常勤	英語
	平20 文・英語英米文	神奈川県立白山高等学校	非常勤	英語
	平20 文・英語英米文	山武市立北小学校	非常勤	英語
	平20 初等・情報・初等・情報	学校法人 明星学園（浦和学院高等学校）	常勤	情報
	平20 院経営・修士	学校法人帝京学園（帝京中学・高等学校）	非常勤	情報
	平20 院商・修士	学校法人藤嶺学園（藤沢翔陵高等学校）	専任	情報・商業
	平18 院文・修士	専修大学附属高等学校	専任	英語
	平20 院文・修士	専修大学附属高等学校	非常勤	公民
	平20 院文・修士	学校法人東京女子学園（東京女子学園中学・高等学校）	常勤	国語
	平20 院文・修士	学校法人相模女子大学 相模女子大学中学部・高等部（高等部配属）	専任	国語
	平20 院文・修士	南足柄市立南足柄中学校	非常勤	特別支援
平成21年度	平21 経済・経済	柏市立豊四季中学校	専任	社会
	平21 経済・経済	神奈川県厚木市立第二小学校	常勤	全科
	平18 経済・国際経済	名古屋市教育委員会（小学校）	専任	全科
	平21 経済・国際経済	日高市立高根小学校	専任	全科
	平13 法・法律	東京都教育委員会（中学校・高校）	専任	社会
	平21 法・法律	笛吹市立浅川中学校	非常勤	社会
	平21 商・会計	学校法人中央学院大学（中央学院大学中央高等学校）	非常勤	商業
	平18 文・英語英米文	東京都立上水高等学校	専任	英語
	平20 文・英語英米文	埼玉県教育委員会（中学校）	専任	英語
	平21 文・英語英米文	草加市立花栗中学校	期限付	英語
	平21 文・英語英米文	朝霞市立第一中学校	専任	英語
	平21 文・英語英米文	砺波市立庄川中学校	専任	英語
	平9 文・人文	神奈川県教育委員会（中学校）	専任	社会
	平16 文・人文	神奈川県教育委員会（中学校）	専任	社会
	平17 文・人文	神奈川県海老名市立柏ヶ谷中学校	専任	社会
	平19 文・人文	仙台市立田子中学校	常勤	社会
	平19 文・人文	横浜市立獅子ヶ谷小学校	専任	全科
	平20 文・人文	埼玉県立伊奈学園総合高等学校	臨時の任用	地理歴史
	平21 文・人文	鳥取市立宮ノ下小学校	常勤	全科
	平21 文・人文	横浜市立嶮山小学校	専任	全科
	平18 文・日本語日本文	都立王子特別支援学校	専任	国語
	平21 文・日本語日本文	学校法人東京文理学院高等部	常勤	国語
	平21 文・日本語日本文	渋谷区立広尾中学校	専任	国語
	平21 文・日本語日本文	福島県立塙工業高等学校	月手当講師	国語
	平21 文・心理	川島町立小見野小学校、川島町立ハッ保小学校、川島町立三保谷小学校、川島町立出丸小学校	非常勤	
	平19 院文・修士	相模原市立大野南中学校	専任	英語
	平21 院文・修士	座間市立相模中学校	専任	英語
	平20 経営・経営	埼玉県立伊奈学園総合高等学校 和光高等学校	非常勤	情報
	平20 経営・経営	学校法人聖徳学園（聖徳学園中学・高等学校）	非常勤	数学

司書課程・司書教諭課程主な就職先一覧（図書館／図書関係）

勤 務 先	
千葉県明德短期大学図書館	市川市東国分中学校
瀬高町立図書館準備室（福岡県）	東京大学法学部図書館
日外アソシエーツ（株）	見附市立図書館（新潟県）
（株）有隣堂	女子栄養大学図書館
下妻市立図書館準備室	東京医科大学図書館
杉並区中央図書館	葛飾区立四ツ木地区図書館（東京都）
種村立図書館（茨城県）	専修大学図書館
八街市立図書館（千葉県）	藤沢市立中央図書館
鷺湖書房	日本原子力研究所研究情報部情報メディアライブラリー
長岡市立中央図書館（新潟県）	（株）雄松堂書店
青山学院女子短期大学図書館	国土館大学鶴川図書館
実践女子大学図書館	学校法人橘学苑（橘学苑中学校・高等学校）
相模原市立相模大野図書館（神奈川県）	神奈川県立川崎高等学校
東京福祉商経専門学校図書室	横須賀市立中央図書館
三省堂書店	神奈川県立図書館
江東区立亀戸図書館	横浜総合リハビリテーションセンター図書館
典昭堂	

学芸員課程主な就職先一覧

勤 務 先	
宮城県栗原市役所	行田市郷土博物館
下妻市ふるさと博物館	さいたま市くらしの博物館民家園
行方市玉造公民館（資料館）	野田市郷土資料館
野田市郷土博物館	東京都埋蔵文化財センター
すみだ郷土文化資料館	群馬県埋蔵文化財センター
町立湯河原美術館	高山市立歴史民族館
高山市立郷土館	国際航業株式会社
鳥羽水族館	秋田県埋蔵文化財センター
埼玉県埋蔵文化財センター	栃木県埋蔵文化財センター
由利本荘市矢島郷土文化保存伝習施設	富岡市立美術博物館 福沢一郎記念美術館
（東京）電力館	MOA美術館
九州国立博	高松市歴史資料館
臼杵市教育委員会	逋信総合博物館
（財）山武郡市文化財センター	（株）乃村工藝社
調布市郷土博物館	日本民藝館
東京国際美術館	町田市フォトサロン
栃木県立博物館	山梨県立考古博物館
福井県立博物館	新発田市教育委員会
入間市郷土博物館	静岡県登呂博物館
松戸市立博物館	箱根美術館
大牟田市歴史資料館	東京都教育委員会
青森県教育委員会	高知県教育委員会
愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター	

平成21年度 資格課程年間行事表

課程		教 職 課 程		司 書 課 程		司 書 教 諭 課 程		学 芸 員 課 程	
月		行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次
4 月	上 旬	教職・司書・司書教諭・学芸員課程履修ガイダンスおよび各種納金（全学年）							
	中 旬	履 修 科 目 登 録 お よ び 履 修 修 正（全学年）							
	下 旬	介護等体験オリエンテーション 実習希望校との内諾交渉 介護等体験事前講習会	3・4 3 3・4						
5 月	上 旬	教育実習事前ガイダンス 教育実習 （5月～10月） 介護等の体験開始 （5月～3月中旬）	4					博物館実習事前ガイダンス	3・4
6 月	上 旬	教育実習登録ガイダンス 教育実習内諾書の提出	3 3					博物館見学実習	3・4
7 月	上 旬	教員免許状一括申請ガイダンス	4			司書教諭修了証書 申請ガイダンス （3年次までに司書 教諭の単位をすべて 修得した者）	4		
	下 旬	前 期 試 験（全 学 年）							
8 月		夏 期 休 暇（8月上旬～9月上旬）							
		前 期 追 試 験（全 学 年）							
				図書館実習	4			博物館実習（館務実習）	3・4
夏 期 休 暇									
9 月	下 旬	教員免許状授与と申請 書確認ガイダンス	4			司書教諭修了証書 申請ガイダンス （4年次で司書教 諭の科目を履修し た者）	4		
10月	上 旬	教職公開講座	1～4					博物館実習登録ガイダンス （第1回）	2・3
11月	中 旬	専修大学英語科教育研究会	1～4					博物館実習登録ガイダンス （第2回）	2・3
	下 旬	教育学会	1～4	司書課程就職 （進路）懇談会	1～4				
12月								実習希望博物館との内諾交渉	2・3
	中 旬							学芸員資格取得証明書申 請手続き	4
1 月	中 旬	後 期 試 験（全 学 年）							
2 月		後 期 追 試 験（全 学 年）							
	下 旬							博物館実習承諾書の提出	2・3
3 月	2 2 日	教員免許状の交付	4					学芸員資格取得証明書の交付	4

平成21年度 教職公開講座開催結果

1. 開催日 平成21年10月3日(土)
2. 時間 13:30～17:10 (17:30～19:00 反省・情報交換会)
3. 場所 生田校舎 7号館 (反省・情報交換会会場: キャビン (9号館5階))
4. 参加者数 119名
5. 内 容

(1) 現職教員(専大OB)からの提言

(教員採用試験の内容・合格までの勉強方法および現職教員としての現在)

講 師 (卒業年・学部・学科)	勤 務 先	科 目
秋山 悟 先生 (平成18年3月文学部日本語日本文学科卒業)	都立王子特別支援学校高等部	国語(特別支援)
滝澤 武 先生 (平成5年3月文学部英米文学科卒業)	専修大学附属高等学校	英 語
種藤 博 先生 (平成9年3月法学部法律学科卒業)	墨田区立本所中学校	社 会
大平 寛紀 先生 (平成18年3月文学部人文学科卒業)	学校法人大妻学院 大妻中学高等学校	地 理 歴 史
松井 一郎 先生 (昭和58年3月商学部商業学科卒業)	学校法人明德学園 相洋高等学校	商 業
澤畑 信行 先生 (平成18年3月経営学部経営学科卒業)	埼玉県立新座柳瀬高等学校	情 報
小島 伸幸 先生 (平成19年3月文学部人文学科卒業)	横浜市立獅子ヶ谷小学校	小 学 校
樋口 絢子 先生 (平成21年3月経済学部国際経済学科卒業)	日高市立高根小学校	

(2) 採用者側からの助言

(教職員の望ましいあり方および現在の教育課程について)

講 師	鈴 木 高 弘 先生	専修大学附属高等学校長 (元東京都立高等学校校長)
-----	------------	------------------------------

(3) タイムテーブル

時 間	内 容	場 所
13:30～13:40	挨拶 教職課程協議会委員長 法学部 教授 広瀬裕子	702教室
13:50～14:30	現職教員からの提言① 国 語 秋山 悟 先生 社 会 種藤 博 先生 商 業 松井 一郎 先生 小 学 校 小島 伸幸 先生	721教室 722教室 723教室 724教室
14:40～15:20	現職教員からの提言② 英 語 滝澤 武 先生 地理歴史 大平 寛紀 先生 情 報 澤畑 信行 先生 小 学 校 樋口 絢子 先生	721教室 722教室 723教室 724教室
15:30～16:00	現職教員とのディスカッション 英 語 滝澤 武 先生 社 会 種藤 博 先生・地理歴史 大平 寛紀 先生 商 業 松井 一郎 先生・情 報 澤畑 信行 先生 小 学 校 小島 伸幸 先生・樋口 絢子 先生 国 語 秋山 悟 先生	721教室 722教室 723教室 724教室 725教室
16:10～17:10	採用者側からの助言 鈴木 高弘 先生	702教室
17:30～19:00	終了後、反省・情報交換会	キャビン (9号館5階)

平成21年度 第18回専修大学英語科教育研究会開催結果

1. 開催日 平成21年11月21日（土）
2. 時間 14：30～16：50（受付14：10～）
3. 場所 生田校舎 10号館 3階 10303教室
4. 参加者数 62名
5. 内容

時間	内容
14：10～	受付
14：30～	開会の挨拶 司会：文学部准教授 片桐 一彦 文学部教授 上村 妙子
14：35～16：05	「現場を一步離れてみる英語教育—現状と今後」 元文学部教授 伊部 哲 神奈川県立総合教育センター 荒川 憲行 茨城県教育研修センター教職教育課 永尾 剛
16：15～16：45	「英語教育を自分の手に—英語教師の自立」 元文学部教授 伊部 哲
16：45～16：50	閉会の挨拶 文学部教授 田邊 祐司



平成21年度 司書課程就職（進路）懇談会開催結果

1. 開催日 平成21年11月28日（土）
2. 時間 17：00～19：00
3. 場所 神田校舎 1号館 5階 ゼミ51教室
4. ゲスト 河津ゆき子（日本アスペクトコア(株)、本学卒業生）
5. 参加者数 14名
6. 内容 司書の資格を生かした働き方について図書館業務に従事している河津ゆき子を交え、懇談。



平成21年度 資格課程教員紹介

《教職》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経済学部	教 授	矢吹 芳洋	公民科教育論
経済学部	講 師	角田真紀子	発達・学習心理学
法学部	教 授	広瀬 裕子	教育行政学
経営学部	教 授	嶺井 正也	教育行政学
商学部	教 授	伊吹 克己	倫理学
商学部	教 授	蔭山 雅博	地理歴史科教育論
商学部	教 授	中野 育男	商業科教育論
商学部	准 教 授	小峰 直史	特別活動論
文学部	教 授	青山 高義	自然地理学概論Ⅱ
文学部	教 授	新井 勝紘	日本史
文学部	教 授	大庭 健	倫理学
文学部	教 授	鐘ヶ江晴彦	教育社会学
文学部	教 授	高橋 龍夫	国語科教育論Ⅰ
文学部	教 授	田邊 祐司	英語科教育論Ⅱ
文学部	教 授	仲川 恭司	書道科教育論
文学部	教 授	貫 成人	哲学
文学部	教 授	福島 義和	地誌学
文学部	教 授	松尾 容孝	人文地理学概論Ⅰ
文学部	准 教 授	江崎 雄治	人文地理学概論Ⅱ
文学部	准 教 授	片桐 一彦	英語科教育論Ⅰ
文学部	准 教 授	刈谷 愛彦	自然地理学概論Ⅰ
文学部	准 教 授	米村みゆき	国語科教育論Ⅱ
ネットワーク 情報学部	教 授	砂原 由和	教育方法論
ネットワーク 情報学部	教 授	綿貫 理明	情報と職業
ネットワーク 情報学部	講 師	望月 俊男	情報科教育論
経済学部	兼任講師	斉藤 利彦	社会科教育論Ⅰ
経済学部	兼任講師	菅澤 康雄	社会科教育論Ⅰ
法学部	兼任講師	赤城美恵子	法律学
法学部	兼任講師	荒井 明夫	総合演習
法学部	兼任講師	中川 律	法律学
法学部	兼任講師	日高 慎	日本史
法学部	兼任講師	宮崎 孝治	教育原論
法学部	兼任講師	森 美保子	発達・学習心理学
法学部	兼任講師	油井原 均	道德教育論
経営学部	兼任講師	大和田雄一	教育方法論
商学部	兼任講師	泉 貴久	地理学
商学部	兼任講師	市川 功	倫理学
商学部	兼任講師	岩田 公夫	教育職員論
商学部	兼任講師	神山 安弘	地理歴史科教育論
商学部	兼任講師	小瑤 史朗	社会科教育論Ⅰ
商学部	兼任講師	遠山 孝七	教育実習Ⅰ
商学部	兼任講師	前川 明彦	人文地理学概論Ⅰ
商学部	兼任講師	三浦 朋子	社会科教育論Ⅰ

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
文学部	兼任講師	石井 輝義	日本史
文学部	兼任講師	大熊 徹	教育実習Ⅰ
文学部	兼任講師	岡 秀一	地誌学
文学部	兼任講師	小野寺利行	外国史
文学部	兼任講師	角田 清美	地誌学
文学部	兼任講師	小林 克則	外国史
文学部	兼任講師	高津 純也	外国史
文学部	兼任講師	田口 博子	宗教学
文学部	兼任講師	長阪 朱美	英語科教育論Ⅰ
文学部	兼任講師	山下 直	国語科教育論Ⅰ
文学部	兼任講師	山添 謙	地理学
ネットワーク 情報学部	兼任講師	高橋 聡	数学科教育論Ⅰ
ネットワーク 情報学部	兼任講師	御園 真史	総合演習

《司書・司書教諭》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経営学部	教 授	荻原 幸子	図書館概論
文学部	准 教 授	野口 武悟	学校経営と学校図書館
経済学部	兼任講師	御園生 純	生涯学習概論
法学部	兼任講師	斎藤憲一郎	情報メディアの活用
法学部	兼任講師	田中 功	情報検索演習
法学部	兼任講師	水上 和則	情報機器論
経営学部	兼任講師	松戸 宏予	学校経営と学校図書館
経営学部	兼任講師	渡辺 暢恵	学校経営と学校図書館
文学部	兼任講師	松本 直樹	図書館サービス論
文学部	兼任講師	汐崎 順子	児童サービス論
文学部	兼任講師	須賀 千絵	図書館経営論
文学部	兼任講師	中島 玲子	情報サービス概説
文学部	兼任講師	長谷川幸男	児童サービス論

《学芸員》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経営学部	教 授	内田 欽三	博物館学
文学部	教 授	亀井 明德	博物館実習

編集後記 ～資格課程年報編集委員より～

本誌を発行予定通りに出すことができてほっとしています。これも執筆を承諾した下さった方々、編集委員のメンバーのおかげですが、事務の板橋政子さんには編集委員長のいたるなさを十分に補っていただきました。皆さまにこの場を借りて御礼申し上げます。そして本誌刊行のきっかけを作った者として、本誌が第12号まで続き、ますます充実していることを喜んでいきます。2010年度には新学部と文学部の新学科が加わり、資格課程も多様な構成メンバーになります。それを生かした誌面づくりができそうです。最後に定年を迎えられた亀井先生に長い間の学芸員課程のご指導へのお礼をさせていただきます。本当にありがとうございました。

資格課程年報編集委員長 経営学部 教授 嶺井 正也

昨年の秋に右手の指先を車のドアに挟んで骨折してしまいました。丁度、「パッソアパッソ」の原稿を執筆中で、周りからは何んという不注意をと呆れかえられた。更に今度はその衝撃で爪がパッキリと剥れて、ちょっと触れるだけでも鋭い痛みが走るほどであった。不自由な生活を強いられていると、なぜ人間に爪があり、指紋があるのかということをもっと知ることができた。年報の原稿は板橋さんの穏やかな言葉に助けられて、何とか印刷へわたすことができたが貴重な経験をした2009年であった。

教職課程 文学部 教授 仲川 恭司

1988年に本学に入職以来、長年にわたりお世話になりまして、衷心より御礼を申し上げます。とりわけ、歴代の学芸員課程を担当された職員の方々にありがたい気持ちを持ち続けております。学生・職員・教員の三位一体で実習が滞りなく進められてきたからです。私の22年間の在職中において、学芸員を目指す学生に本当に力になってやれたのか、いささか忸怩するところです。もう一つの心残りは、専修大学に博物館をつくる計画を抱いていましたが、私の努力不足で、その一步を踏み出したところで、挫折してしまいました。近い将来、これが実現するように、教職の先生方のご理解をいただきたい。長い歴史を誇る本学のようなところに、大学博物館が無いほうが不思議であり、法人側の方々が、もし、この拙文をお読みいただく機会がありましたら、心の片隅においていただければ、私のお願いです。

学芸員課程 文学部 教授 亀井 明德

今年度の『パッソ・ア・パッソ』の「司書・司書教諭課程」のページには、汐崎先生、学生の小島さんと狩野さんに寄稿いただいた。今回から新たに「在学生から」の欄を設けたが、これからも、司書・司書教諭課程を履修する学生の役に立つ話題、情報を提供できるような誌面構成を考えていきたいと思う。ところで、今年度（2009年度）は、本学司書教諭課程が1955年度にスタートしてから55周年だった。過去の『パッソ・ア・パッソ』を振り返っても司書・司書教諭課程の歴史を振り返るような寄稿はなかったので、来年度の『パッソ・ア・パッソ』では55年の歴史を振り返るような寄稿をお願いするのも一案かなと今から考えている。

司書教諭・司書課程 文学部 准教授 野口 武悟

2010年4月1日

平成21年度 専修大学

資格課程年報『パッソ ア パッソ』

発行日 平成22年4月1日

編集 専修大学

生田校舎 教務課 資格課程係

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

TEL 044-911-1259 FAX 044-911-7163

神田校舎 教務課・二部事務課

〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8

TEL 03-3265-5843・8359 FAX 03-3265-7084

URL http://www.senshu-u.ac.jp/sc_grsc/shikaku/

印刷 株式会社 芳文社

〒194-0033 東京都町田市木曽町2320

TEL 042-792-3100

